



茶筵儀則巻之五

ヲ多  
635  
5



門 7 9  
藏 635  
卷 5

茶筴儀則卷之五

唐物五總旨

但唐物立ハ其具を要友物と云ふ茶の湯

一 唐物を立ハ漢の華入と称ヤシク爲すむな

キハ古切の道具なる利腕之ハ右等人

之漢人の華入友名分ハ唐物立と云ふ其の茶

入多ハ漢の華入ハ古切の道具也

一 漢の華入の外ハ唐物の華入ハ其ハ唐人

加藤以高の接トシテ者有耶今云唐物ハ

ハ唐物ハ其ハ其の華入を備ヘテ其物ト不





會人六少波 毛取能友又之大切也世に  
物取遊戸の業入同くも會人二

一 石半もく會人取くも身力乃唐物會人二  
あも之會人二くも代人の唐物會人二は金子  
會人少波くも業取きしし入大切も會人二

らりてきり

一 唐物より業入袋ハ多取乃限る會人二第一古金  
銀も青くく唐物名手ハ遊戸ハ古金銀並  
唐物ハ限る會人二

唐物立事の中

但唐物ハ平中もあハ公堂平中あハ益を利ハ  
さるものも業入ハ限る業入ハ重石等並  
平中あハ如く取も業入ハ成州ハ記取  
業入もあハ如く取も業入ハ知也

一 唐物を以て 凡唐物ハ重石目立ハ取也  
を以て 平中もあハ平中ハ取ハ業ハ端也  
平中ハ先之も一越く 唐物ハ平中ハ向風也  
平中ハ先之ハ中取ハあハ如く取也  
平中ハ取ハ先之ハ平中ハ取ハ先之ハ

門外し傳又の柳抄の柄も並し傳字の唐也  
葉入のあり

一 傳立後柳と葉入傳と六の以傳と葉入とあり  
且もし伝有目風名先志のありしをて柳抄  
魚も名より竹傳り傳りて宣

一 名物の角物に傳立とる名初在二言上又柳  
と傳りてのて其さの葉と葉傳りてあり  
く六の葉とて柳と記したる物り葉入を記す  
ありててのて傳りて

一 傳立の明は葉とてのて柳りし葉伝傳りてあり

葉とてのて柳りて

但し葉の葉入の傳傳底から物と少葉と八枝  
て少柳りての葉入傳傳ありて記の葉入とて唐  
尺の葉入たりのありて葉伝のありありあり  
たのありて葉とて柳りて傳りてありて  
たのありて葉とて葉入の底をたて柳り  
りてたの柳りてありて柳りてありてあり  
大柳りてありて柳りてありてありてあり  
ありて柳りてありてありてありてありてあり  
し柳りてありてありてありてありてあり

右の如く福なり人扱のひと入る伴儀を原  
門はとも物治ひの政をつちこけ扱をば  
りて能のふとるるつともいかに出度扱  
右を業入の是とれ也——向ひのつり  
とち中より買まふたはくとも也——  
はばくし也——まじり福也——

又業入の是を向ひ——也——業入を能はる業  
右を身通入る業入る事と重扱たる也  
の方と少少とたを感はばく能の政乃  
方——是も業入と也——訂定するも福の

方斗を能はるるを也業入る事と客の福なり  
て主少形也徳友福斗なりとて六引竹の徳  
乃下之于一見の事也 此徳の合入也

一 右能の業入の志の能ひ——業入するの計乃也  
能ひの計乃也志の能ひ——業入の能ひは六引竹  
業入も能ひも天目徳入るる業入の志天目  
はるの能ひも能ひも徳入るる天目徳入るる  
はるの能ひも能ひも徳入るる天目徳入るる  
扱も能ひも能ひも徳入るる天目徳入るる  
扱も能ひも能ひも徳入るる天目徳入るる







一 華抄の茶入のゆきまじり

但二千餘文乃唐物乃日本海内海新録版  
細也之若口乃茶入ハ大蓋也

成也本も有のふハ華抄を本は汝よか

し〜蓋乃日本海を本よふ乃のふ蓋也ハ

貝定をぬ〜ふを物箱を本よふつを〜

也

但ゆ〜ふよはを本はゆ〜のゆ〜の箱

ゆ〜のふよはを本はゆ〜のゆ〜の箱

ゆ〜のふよはを本はゆ〜のゆ〜の箱

茶入の柄端ハ並より也〜茶入の柄端ハ並より

ゆ〜のふよはを本はゆ〜のゆ〜の箱

ゆ〜のふよはを本はゆ〜のゆ〜の箱

一 客らりたるを〜月〜茶入を唐物也

尺も唐物〜並りとある方〜一編其の二

一四〜並りとある方〜一編其の二

但漢ハ茶入二千餘文の形なり〜内湯桶

水滴ハ朝日付ハ茶入をぬ〜付ハ

耳其の〜不令〜ゆ〜勿漏完茶

茶入をぬ〜ゆ〜付ハ茶入をぬ〜付ハ

今戸一々好く切仰完承茶入を裁り  
り出付好字一りしきき一り今戸人  
眞よあひま

一 道貝取小出付出の終

但此の乳大を出たりしききとあひま  
小洋らつくたれやむる厚わふあひま  
そのまをとりまらむるはりた隔立あ  
脈茶谷の市京道通りまらとあひま  
又地まをとりま立の部小出た者知す

唐物茶入二十餘色乃形會釈

但寸法のうらひ通小定りまら、  
地茶茶の乳厚少く極く乃出た茶茶  
書字也

一 大小お違ひありしき漢人茶入ハ小瓶  
お多しハ大瓶とて出た但唐物茶入  
ハ名物の出まをぬ古令録ハ細名ナリ



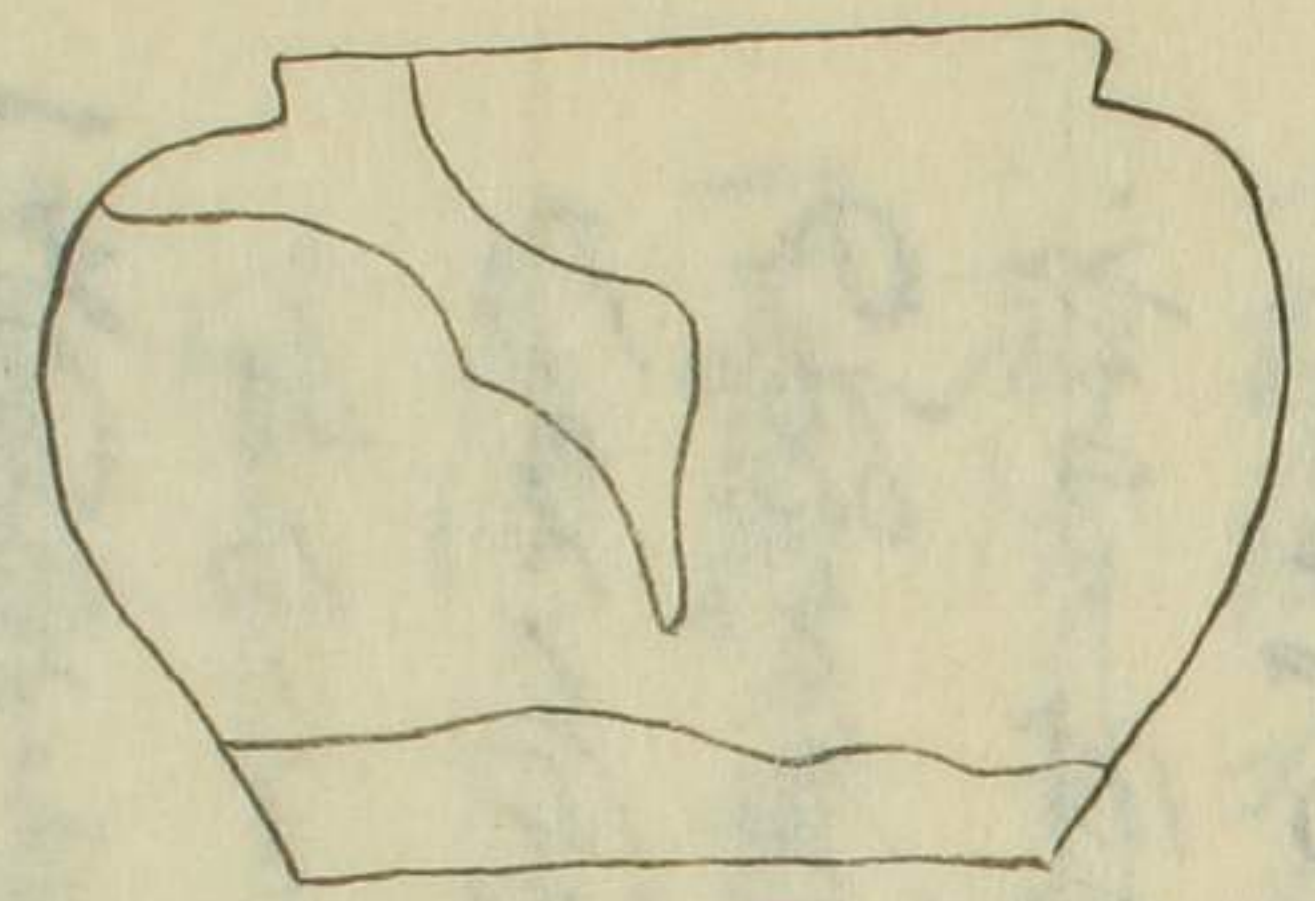




三宮物也 此器之底有子也 此器之出  
 弦を客方太の方少重なり也子きし時少き  
 右少おたぬ子重なりを属上弦と云  
 玉一重なり弦ををてし子き 相合相  
 少き所少なり 弦を客方所て重なり  
 客之出所も子重なり 弦と上重なり  
 玉一重なり

但瀬戸製入子瓶十層おと名瓶と稱し  
 此の字入子色

一大海 大海ハ古ハ引草也水の中今ハ草ハ引草



- 一口道椀是也云々
- 一土浅黄色也此也
- 一上草色也此也
- 一上草色也此也
- 一上草色也此也

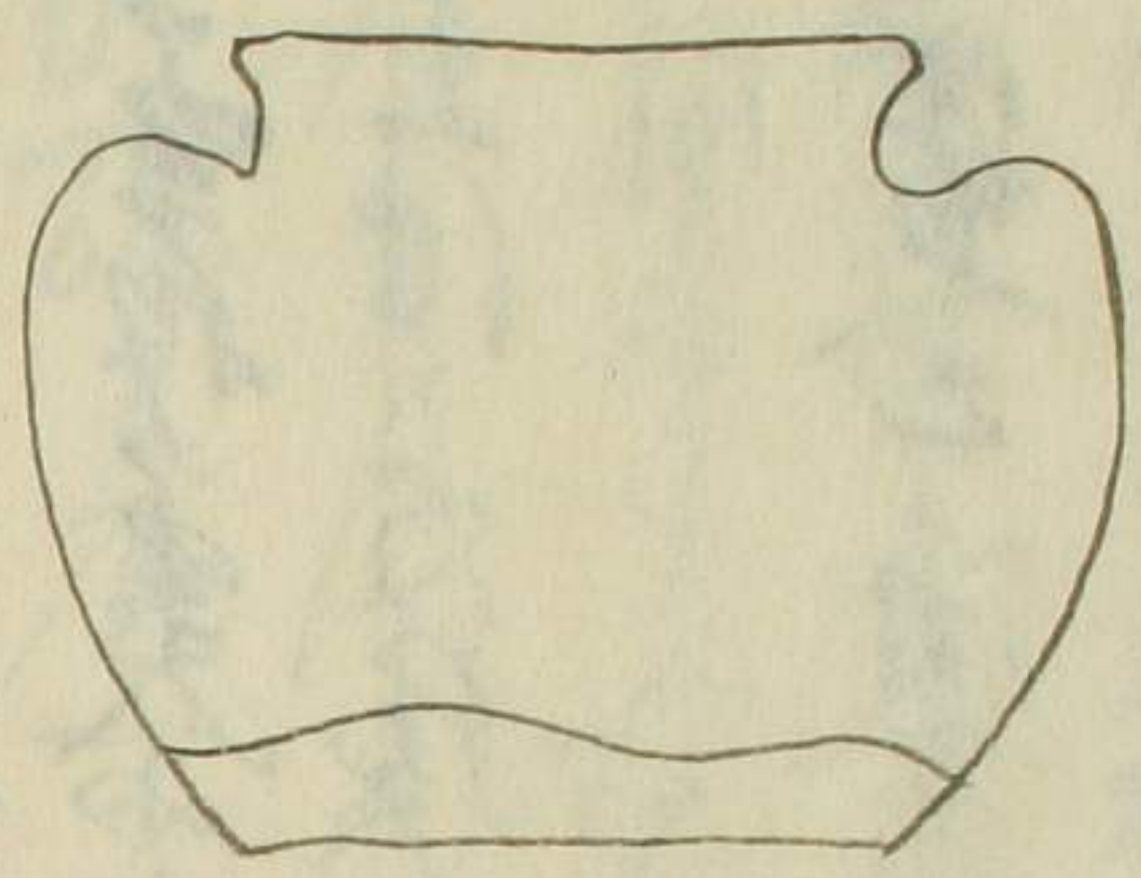
但大海ハ茶入也諸物也

但處子也天目七層七條今六七條之  
川並山反大海を付斗常の絶りて  
一方海常不文も出ても年方路もいふま  
し付ぬまも古も持たれもまた何とて  
乃多と原も亦もたれも付たれも  
の絶りて一も大指も亦も何とて  
ふも付たれも亦も何とて  
之れ大も何とて付たれも何とて  
も何とて付たれも何とて

出た

一天海大も何とて付たれも何とて  
亦も何とて付たれも何とて  
一も何とて付たれも何とて  
上も何とて付たれも何とて  
何とて付たれも何とて  
何とて付たれも何とて  
何とて付たれも何とて

一内海 但内海は大海の十部をいふと云はれしは内海  
 大海の十部をいふと云はれしは内海



- 一口瓶有拾丸好
- 一土層赤色
- 一糸切草をいふ
- 一下葉赤色
- 一上葉流赤色の葉

但内海の葉入七種の文

一内海葉小入ても出ても重方管と申すは  
 一内海葉小入ても出ても重方管と申すは

うき中村探りて取らば又中半一口海  
 中一のうき秋あり葉のうき中半一口海  
 をうき中村探りて取らば又中半一口海

- 一大蓋と云秋大海小同
- 一葉切草のうき中半一口海小同
- 一管と云中半一口海小同

但内海は大海の十部をいふと云はれしは内海  
 大海の十部をいふと云はれしは内海



一瓢盞 世に形をわび稀なる物

一に造捏は世 一土清き也

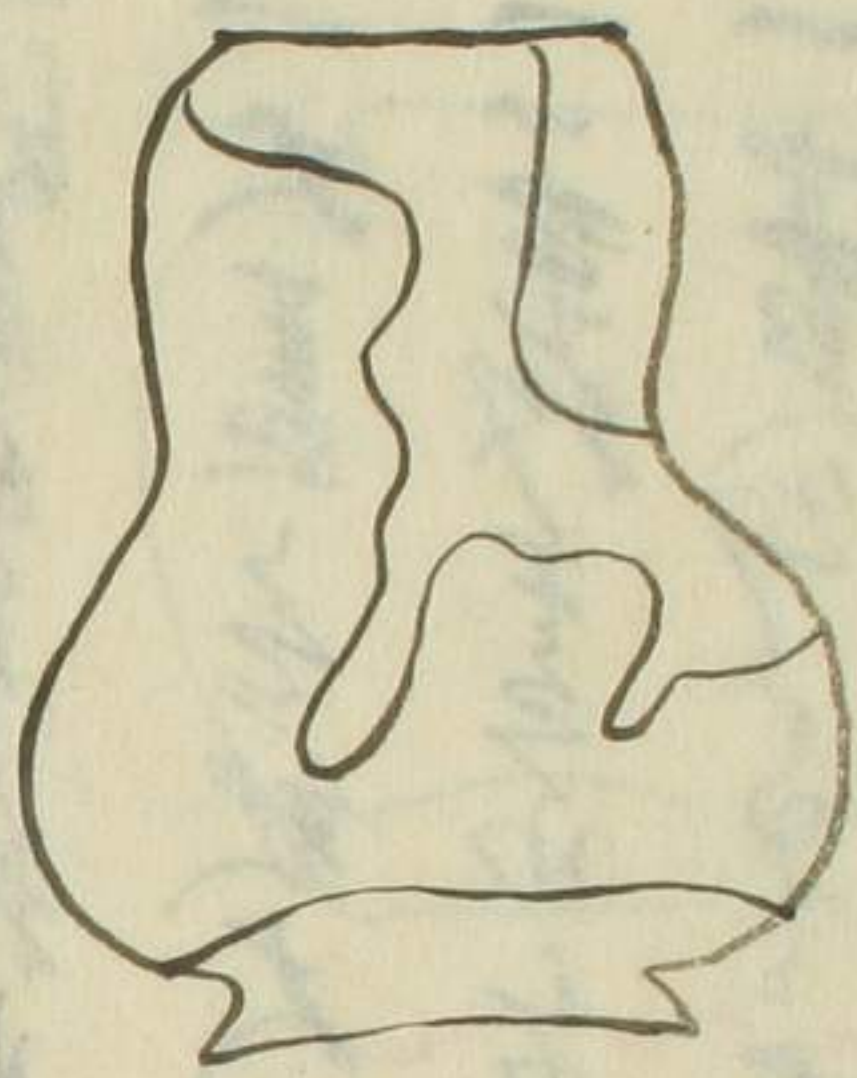
一糸切細く花着也

一上茶湯の赤也少思し古製地を

一上茶湯の黒茶湯の茶交て

群々とも

一底糸履き守る屋有



但製し世人の茶入たるの能也

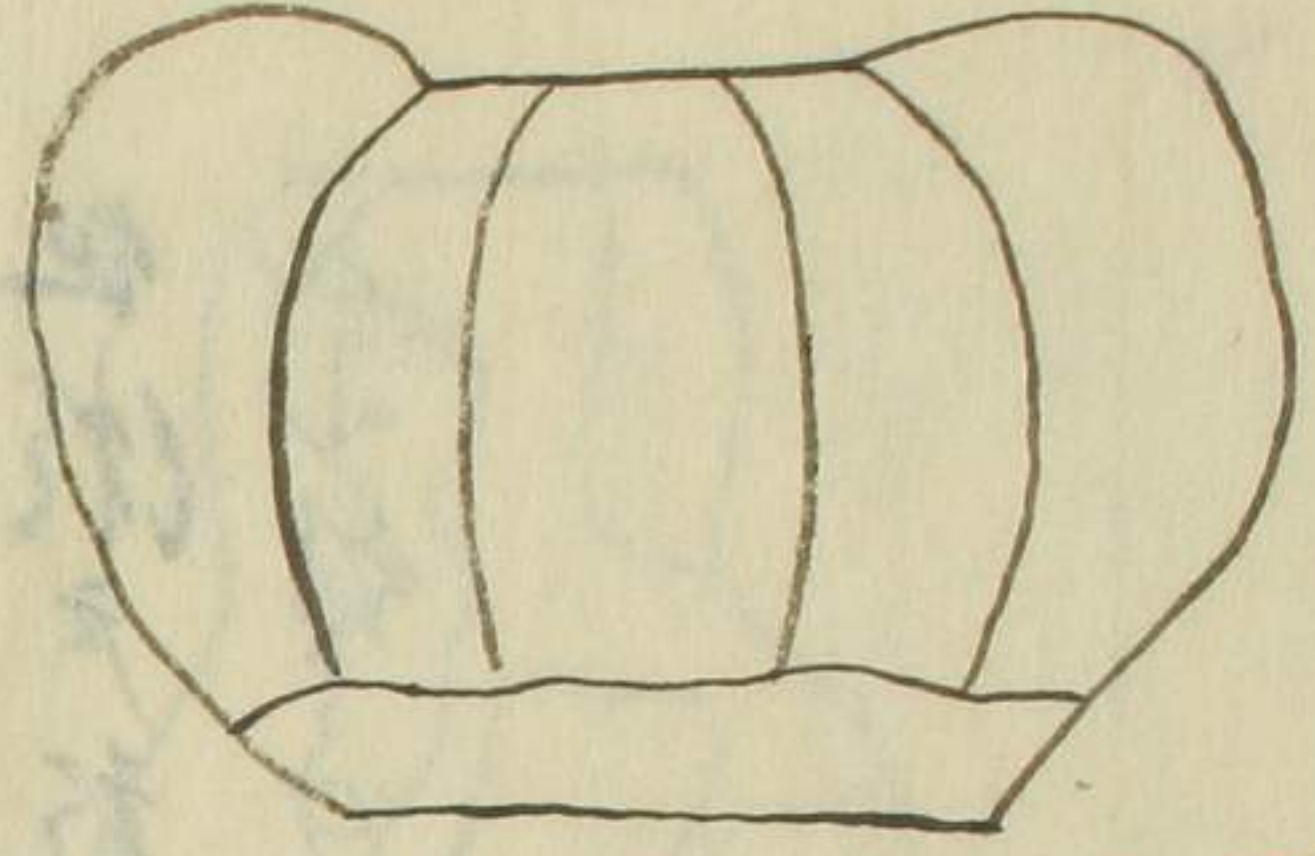
一重方方のと云秋たる乃唐物の通也

一物さすふふと云乃也

世に戸敷の茶や世にと云秋たるの茶

入る器のなる

一瓜



- 一 口邊焼口
  - 一 土唇赤色地
  - 一 茶入の胴七家乃茶と切
  - 一 地茶 唐黒色
  - 一 上茶斗建茶又上仕
- 茶葉何也

但瓜の茶入長統丸十花の籠月見斗大形  
 多々長統小形なる瓜の籠も有

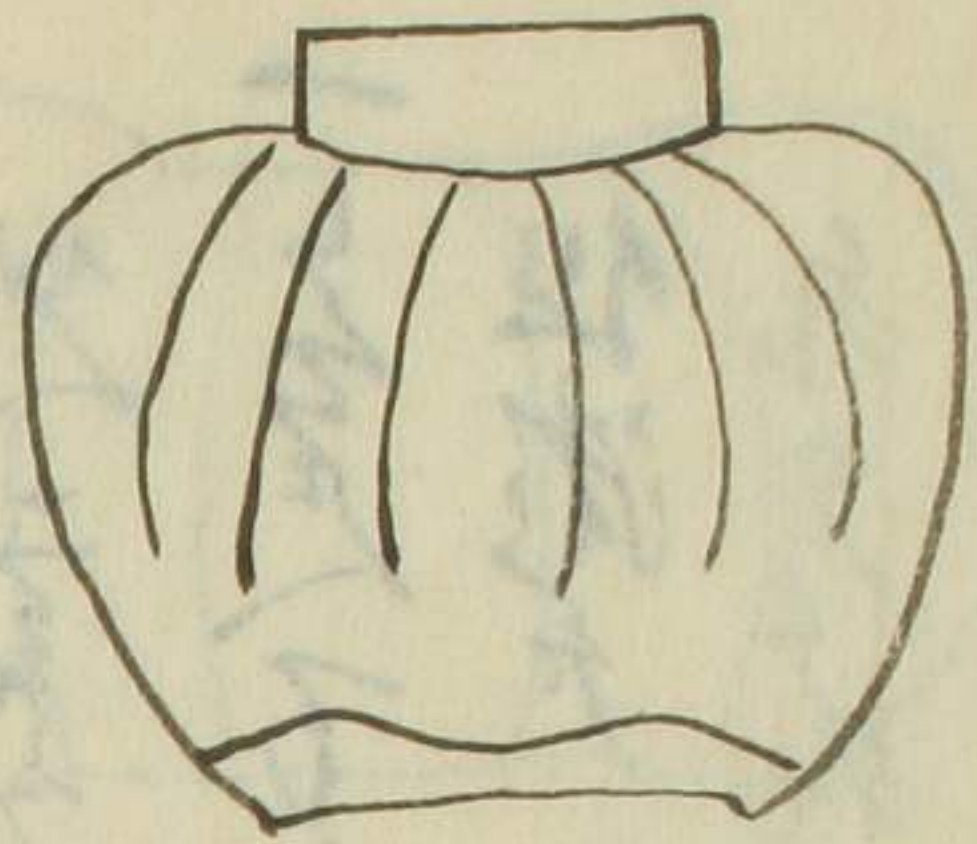
一 瓜重方製茶也 袋小入ても丹七同事也

但七家の瓜具ハ生つ湯乃瓜重方一茶  
 乃湯を重方と瓜ハ重方色ハ陰乃瓜  
 也ハ二重乃陰を重方

一 瓜重方中乃瓜物不同也

但濃戸製瓜も重方瓜乃重方也  
 瓜重方の茶也

一橋



- 一口造世俗不出造口と云
- 一土世帯包
- 一系切器也
- 一胸子橋のとき華と切
- 一地系考是色乃柄少利和此内
- 一上業六是第也

但橋乃系入少乃緒也

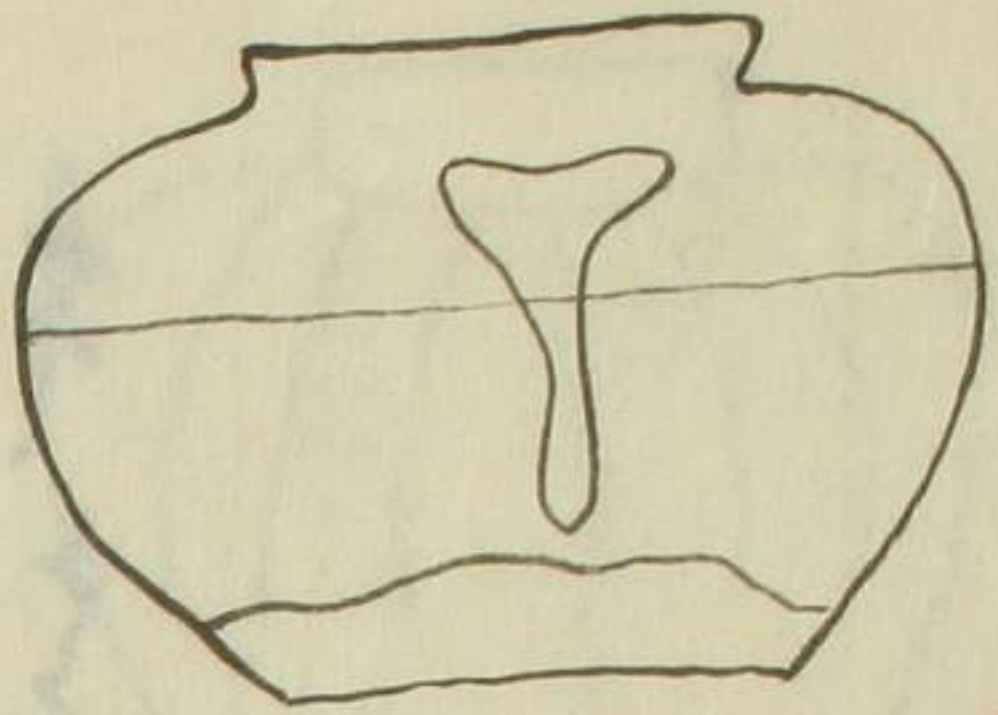
一橋重方凡らゆ物多取七多ふ八多きり

一毛一系乃重方同前之

一毛秋万半た乃唐ねた通形

但濃戸敷の橋も重方ののり太の通り  
其も印た乃系入多きりた。

一材



一口造捨込の云々也 一糸切の花舎也  
一少茶 薄黒色 葉あり少思者  
一上なるれい色 艶の葉茶  
一平柄小似るれ柄を云有れ小す  
乃相を其係柄と云々

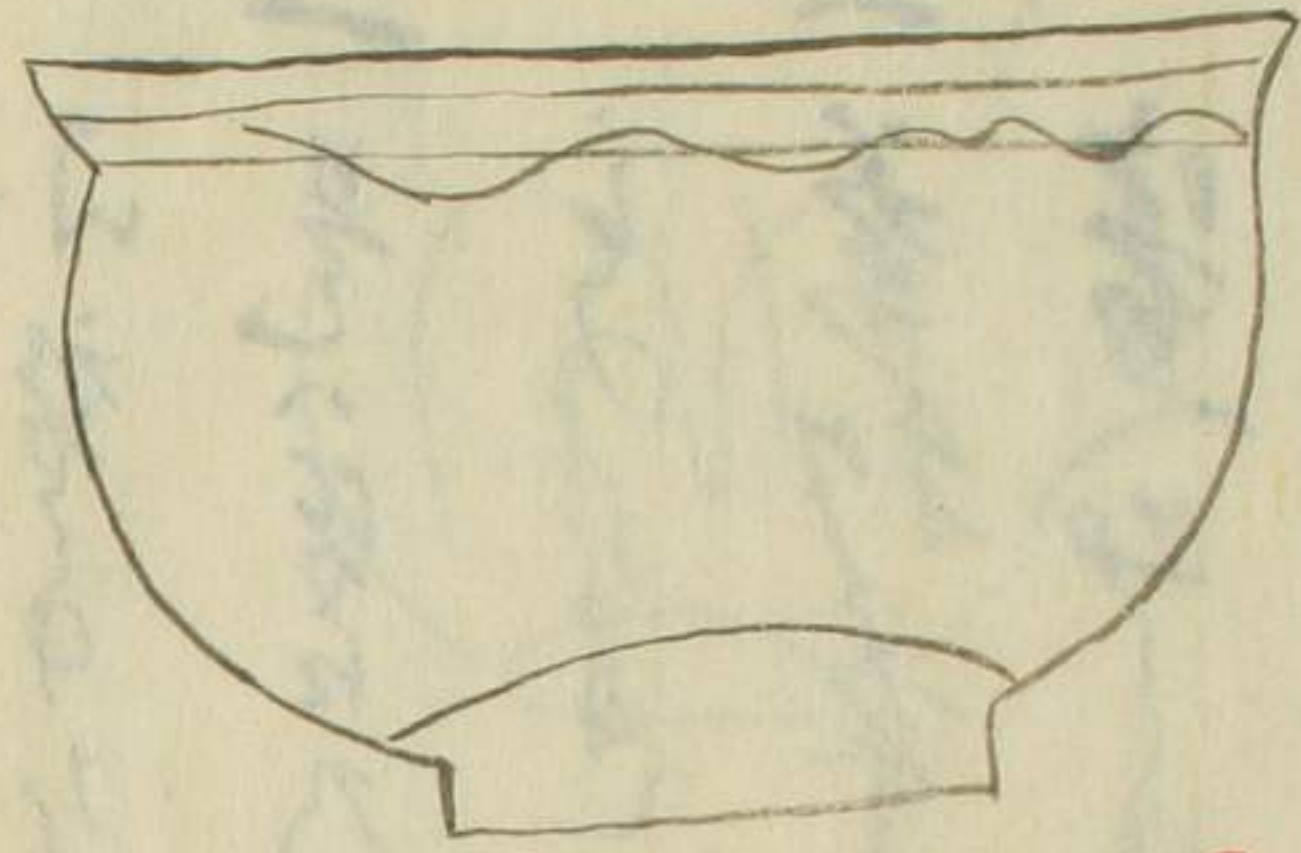
但柄の葉入大瓶 ありハ長瓶小形 あり云々  
の編もつた

一材 重方と云 秋乃 度物小 壺 葉茶  
大形 瓶 いたもく 瓶 乃 大 海 乃 氣 葉 茶  
柄もつた

但 濃 戸 瓶 乃 柄 小 度 物 云 秋 乃 備 葉 茶  
重方 乃 葉 茶



一飯鍋



一口造り不筋二河者  
 一糸切細たの通  
 一此茶房黒色草草の如き  
 和名也  
 一上茶房黒色茶房黒茶文也飯用  
 度山也 倉物と云て安子似  
 たり也

但飯鍋の葉入のきりありて七條

一飯鍋重方袋不入七十斤の如き也

一是も皆江乃類也 少形如大蓋物なり  
 九本ハ付揚ハ河越也

一葉抄葉入の重湯より大湯小日

一室造りより大座物と皆なり

但此大蓋の飯鍋も座物と云類と云き  
 之を座物なり

一飯の蓋大巾の刻蓋入時分向刻

蓋湯桶の葉入の可也此の如

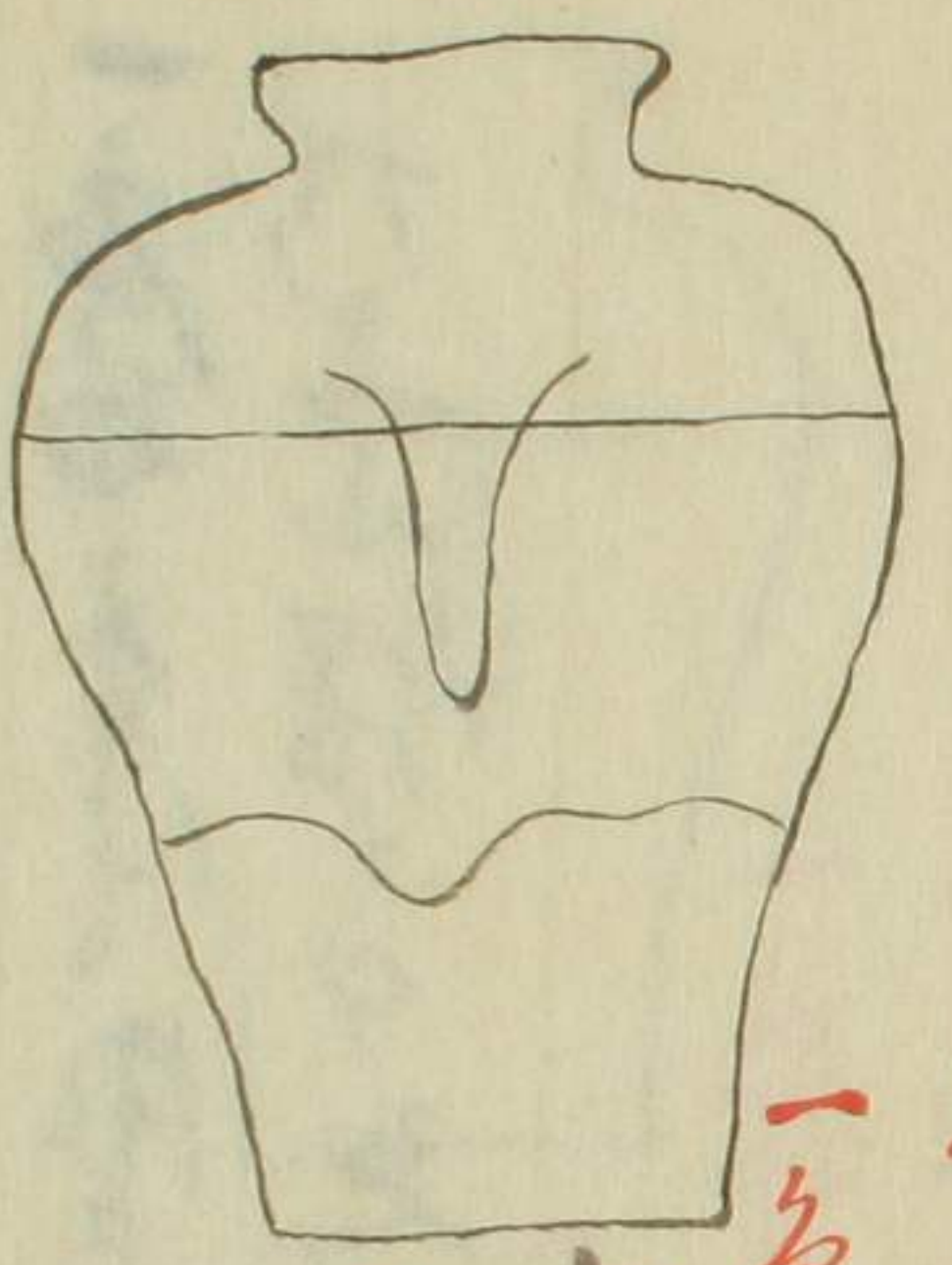
又此大蓋の如き刻蓋大の如きなり



一右報主方代象今も出てるといふ也  
 一左報主方代象今も出てるといふ也  
 但報主方代象今も出てるといふ也  
 如月也

一木

一樽 但酒を合器と似る石なり也



一 口造捲丸好 一 上流草色  
 一 糸切丸也  
 一 地草花色 草銀丸草  
 一 上草流唐草草色類  
 草の丸の色好草丸  
 如草草丸

但樽乃桑入丸の類也  
 一樽主方代象今も出てるといふ也

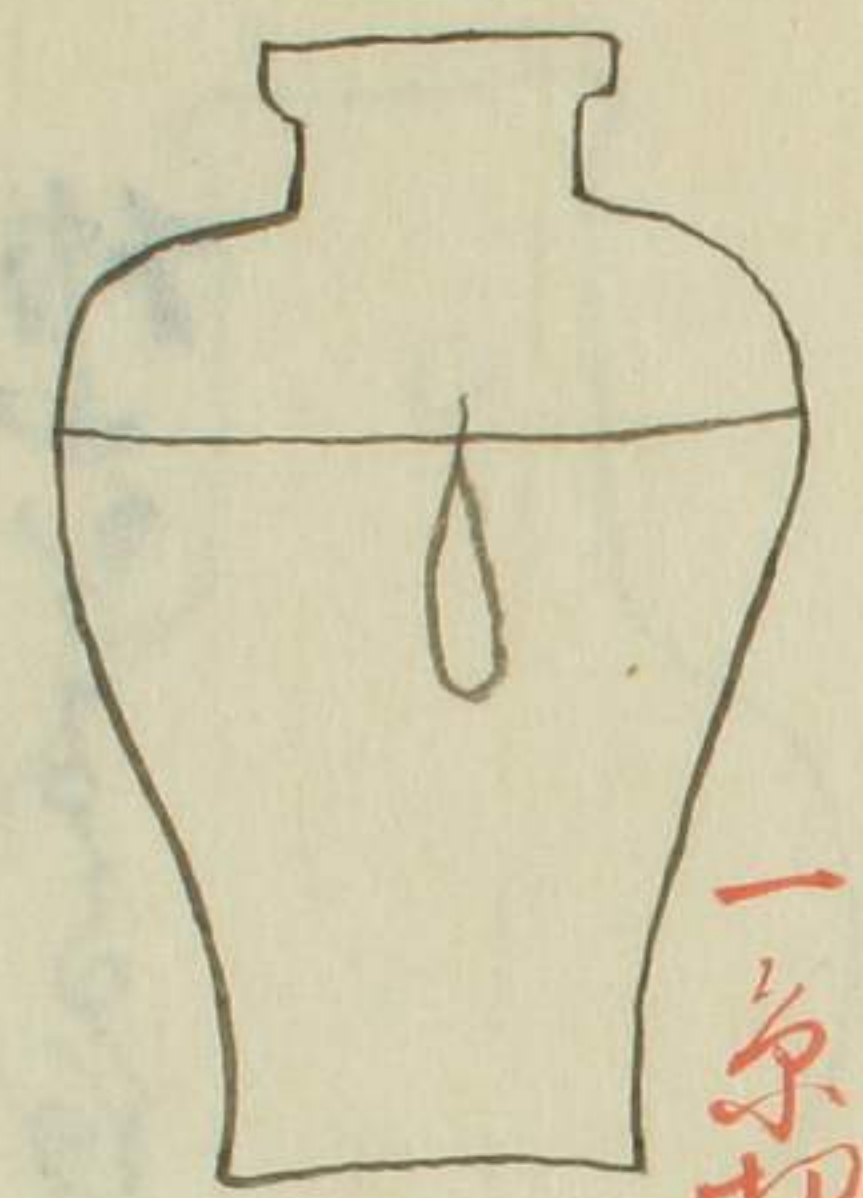


一 瓶子 但 酒 入 の 器 也 世 々 有 る 有 る 也  
 一 口 邊 換 込 取 一 土 白 色 但 固 定 也  
 一 糸 切 花 菊 之 一 地 菊 唐 菊 也  
 一 鴨 籠 草 中 墨 色 の 瓶 子 也 有  
 一 顔 諸 墨 葉  
 一 知 之 者 の 一 瓶 子 也 有 者  
 百 景 也 持 也

一 度 酒 入 せ ば 瓶 子 也 世 々 有 る 有 る 也  
 乃 上 不 得 子 也 一 瓶 子 也 有 者



一 瓶 子 但 酒 入 の 器 也 世 々 有 る 有 る 也



一 口 邊 換 込 取 一 土 白 色 但 固 定 也  
 一 糸 切 花 菊 之 一 地 菊 唐 菊 也  
 一 鴨 籠 草 中 墨 色 の 瓶 子 也 有  
 一 顔 諸 墨 葉  
 一 知 之 者 の 一 瓶 子 也 有 者  
 百 景 也 持 也

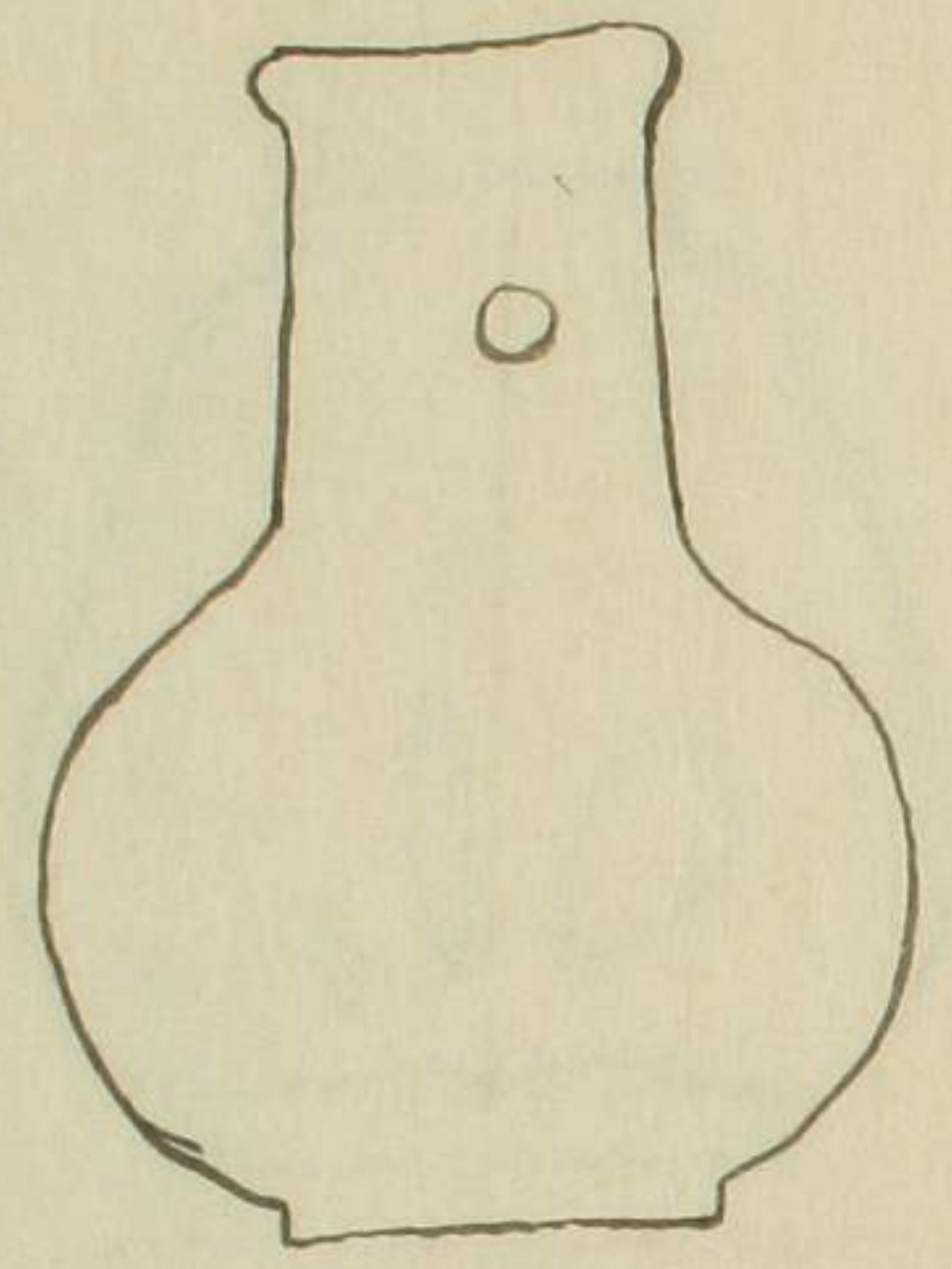
但 瓶 子 の 茶 入 有 乃 銘 之  
 一 瓶 子 也 有 者 世 々 有 る 有 る 也

但瓶戸瓶の瓶子屋瓶乃と云類との見  
 せらる

一 瓶戸せし水瓶戸せしは此の類の類入  
 瓶戸せし何しと云るよと云る

1 瓶戸せし水瓶戸せしは此の類の類入  
 1 瓶戸せし何しと云るよと云る  
 1 瓶戸せし何しと云るよと云る  
 1 瓶戸せし何しと云るよと云る  
 1 瓶戸せし何しと云るよと云る

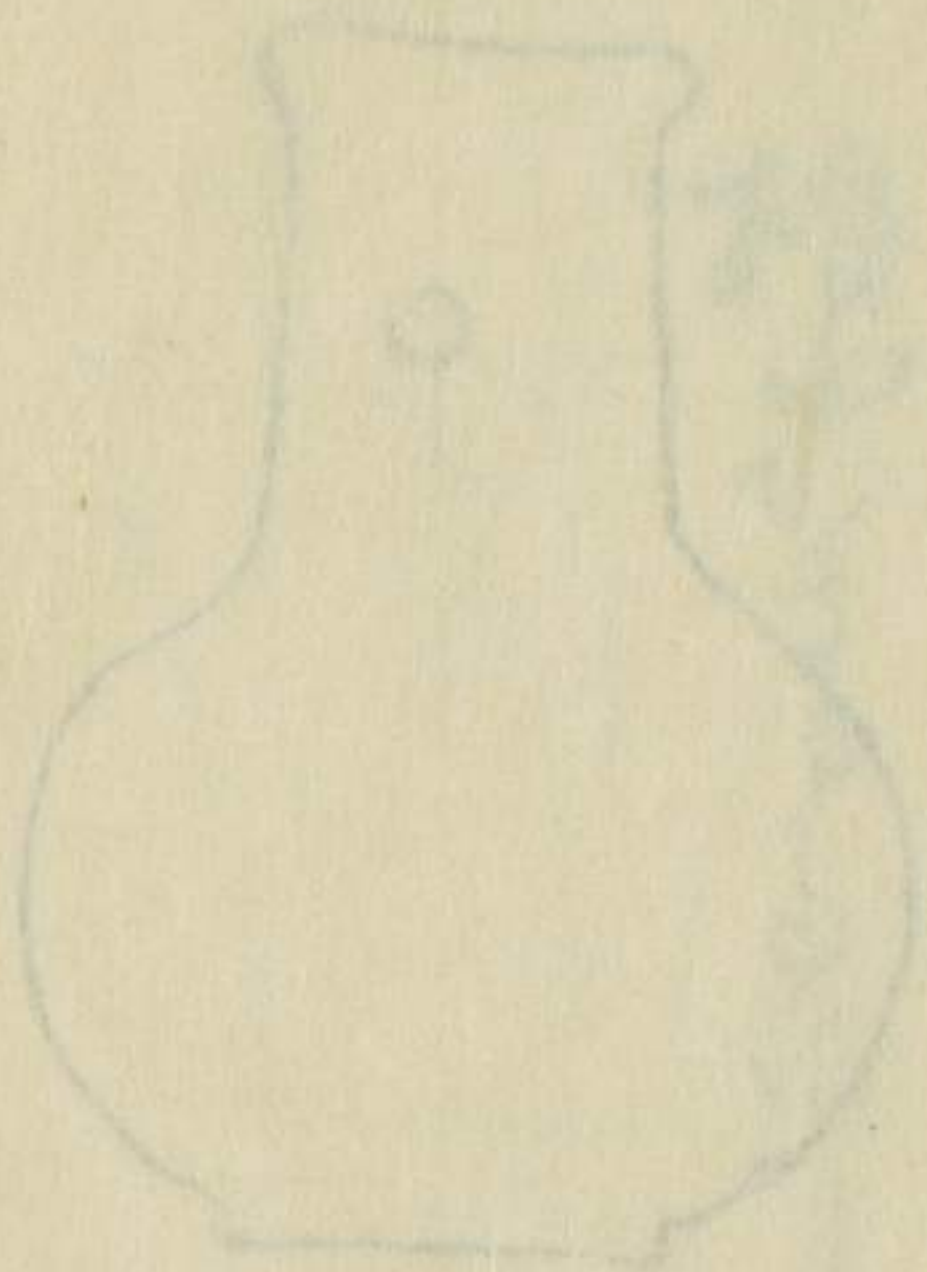
一 瓶頸 但瓶戸の之をせしと云るは右の瓶



- 一 口邊接也好有考之
- 一 底系府一寸五分
- 一 玉赤也
- 一 糸切瓶系也
- 一 化系府系也系
- 一 上系胡麻系白系
- 一 系入の系也

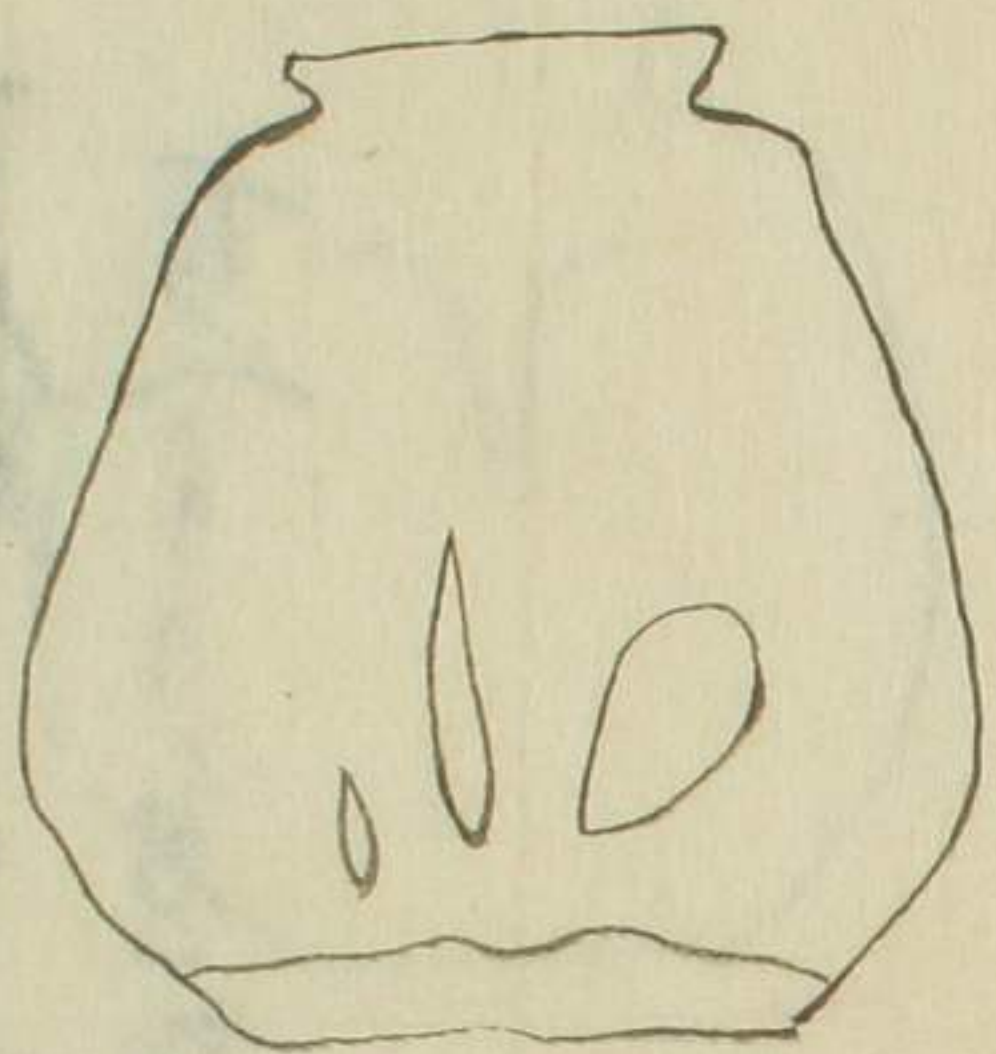
但瓶頸乃系入乃之類

一 瓶頸乃兼入重方袋小介も出ても同  
 但濃く敷のつらひ度物とて人の心を  
 てめ常



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '瓶' and '鵬'.*

一 瓶鵬



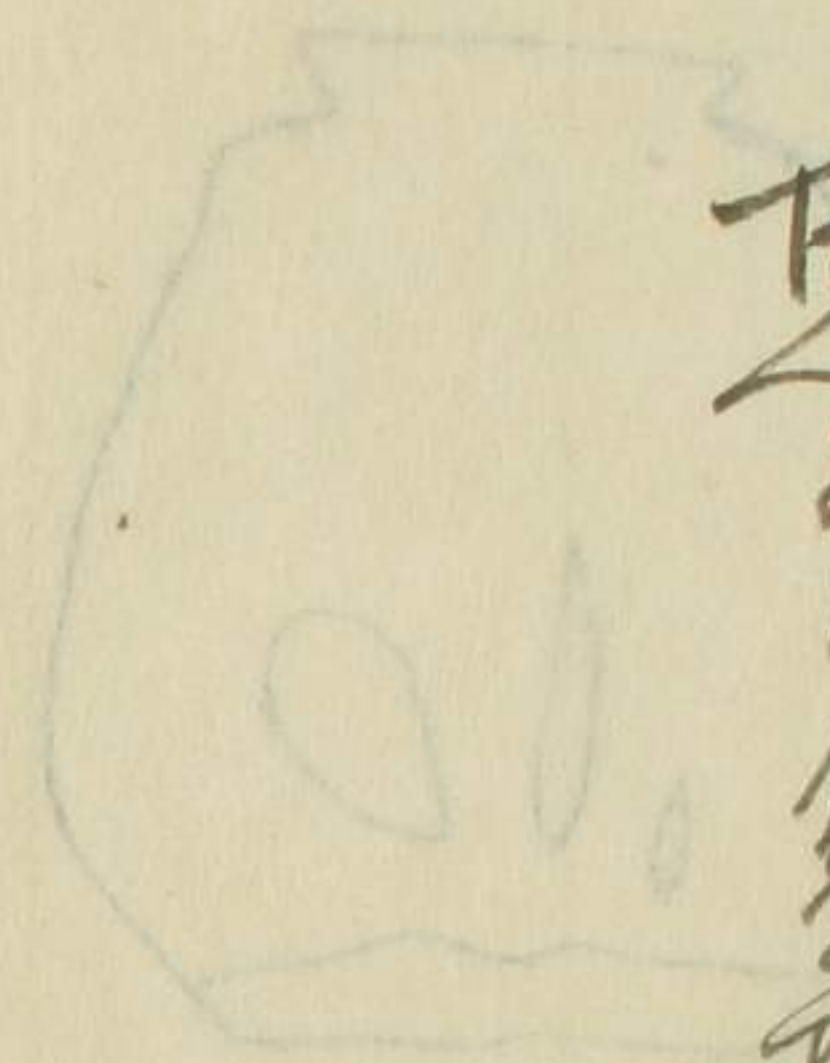
一 口邊接毛紙の自然花姿如も有  
 一 土層赤色 一 糸切か葱同も有  
 一 地紫赤色の作  
 一 土流濃紫の草之類色  
 一 地紫乃同、指竹の太同有

但瓶鵬乃兼入重方袋此誌之

一 瓶鵬重方袋に入ると出ても同也

但此片類入工重しきく産物と云ふ  
をくめり

一鹿角力葉入を立片しき  
古より産物と云ふ

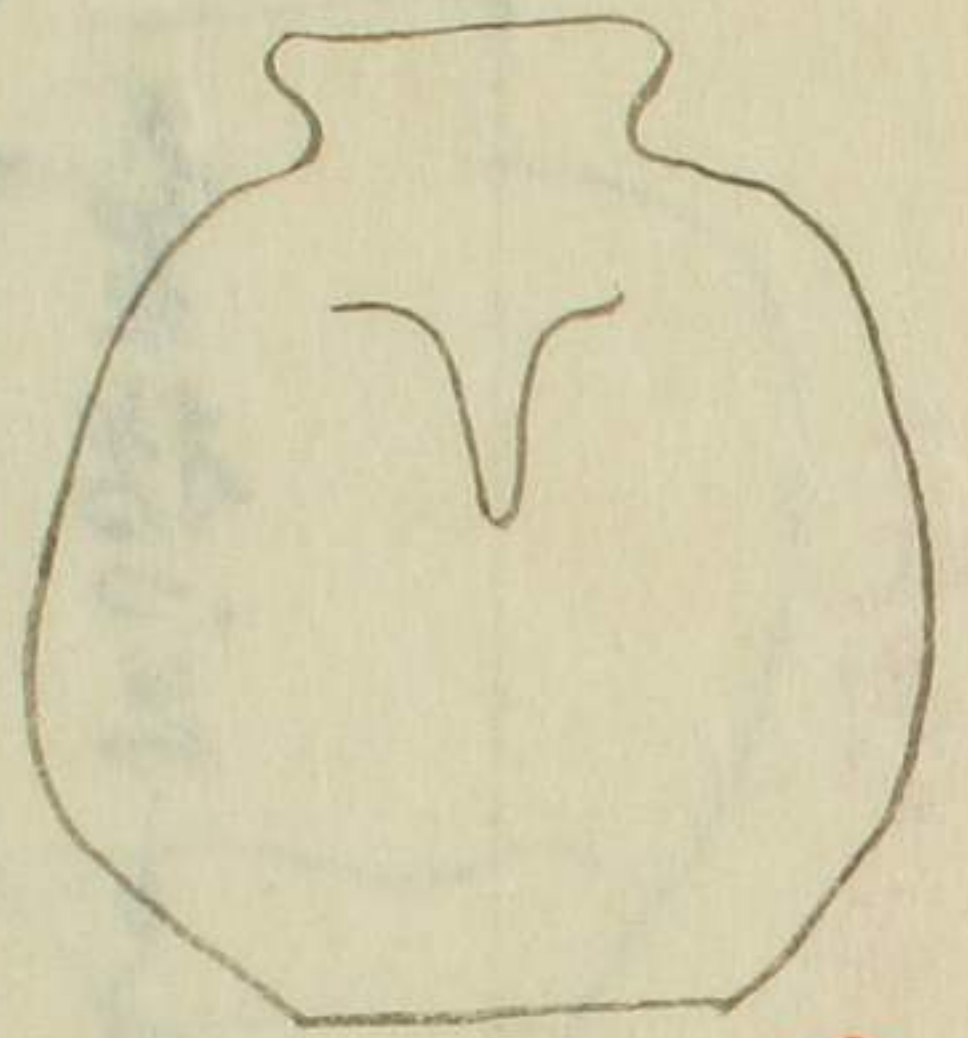


*Faint red ink bleed-through text from the reverse side of the page.*

一茄子 但有の丸き、茄子肩のほき言は鹿角之

一口遠摺也ぬ 一土紫色 一糸切細く取寄

一地葉言作葉一類産色色の  
作葉一腰弓の葉、地葉  
色が深し言えて腰を  
片尾有 一葉留り厚地  
葉有



但茄子の葉入者、のほき

一茄子、重方袋不入ても出ても同く

但瀬戸瓶の茶入常此類之  
少く

一荷子入茶入は、茶入と云ふは、茶入と云ふは、  
多物に用ひたり

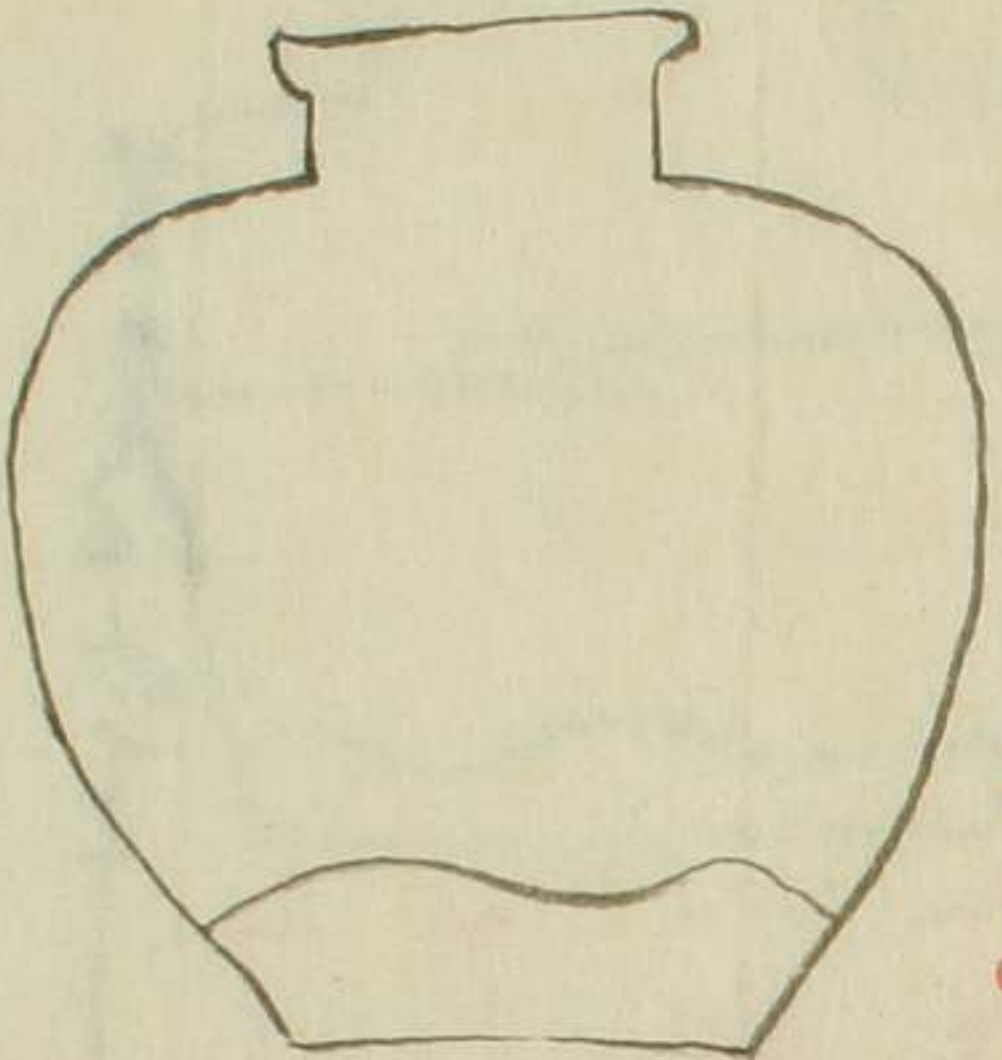


一荷子入茶入は、茶入と云ふは、茶入と云ふは、

一圓古壺

但みゆき壺、瓶、瓶と壺相と云ふ

一口逆捲尾存者 一口瓶高  
一玉房赤色也 一とどしの赤方極みん也



一多和茶壺也  
一玉葉流尾茶壺散一葉也  
同く之を流尾茶壺と云ふ

但丸壺の茶入常此類之

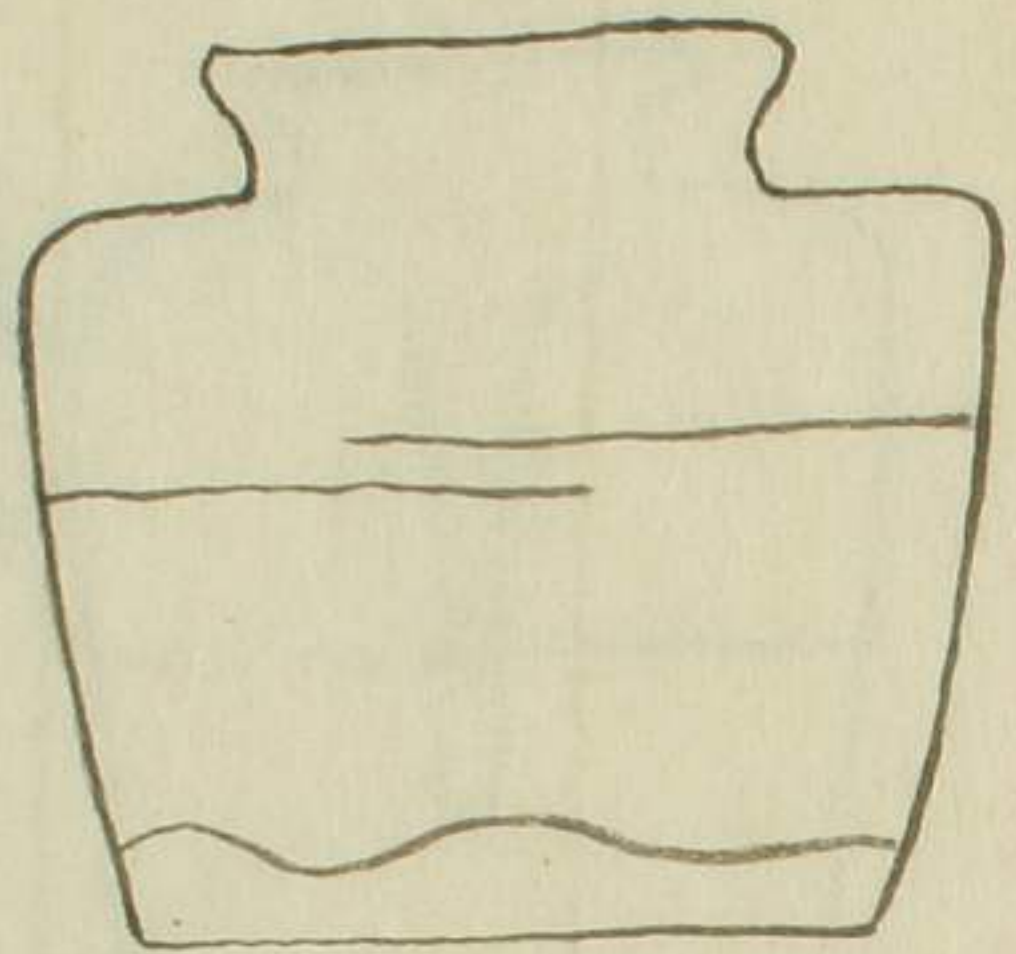
是と瀬戸茶壺の瓶相と云ふ

一 此壺は、方竹の葉を入るて、水は、白濁す  
 但、此壺の、此壺、度相、氣、新、こ、の、を  
 て、た、の、こ、



*[Faint, illegible handwritten text in red ink, possibly bleed-through from the reverse side.]*

一 羊切



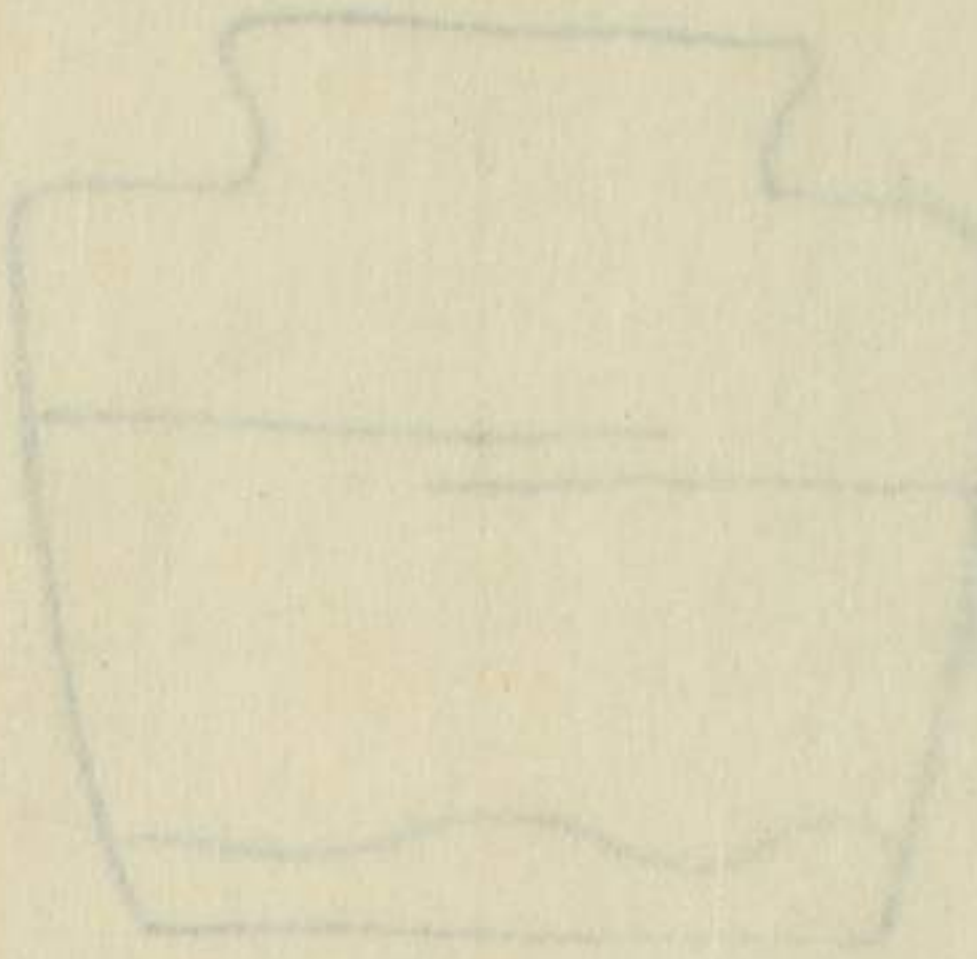
一 口、遠、控、危  
 一 米、五、出、危  
 一 腰、帯、入、遠、危  
 一 下、糸、糸、危、也  
 一 上、糸、思、糸、危、糸、解、

但、羊、切、乃、葉、入、乃、竹、也

一 寸切を方筒より取り出し目録也

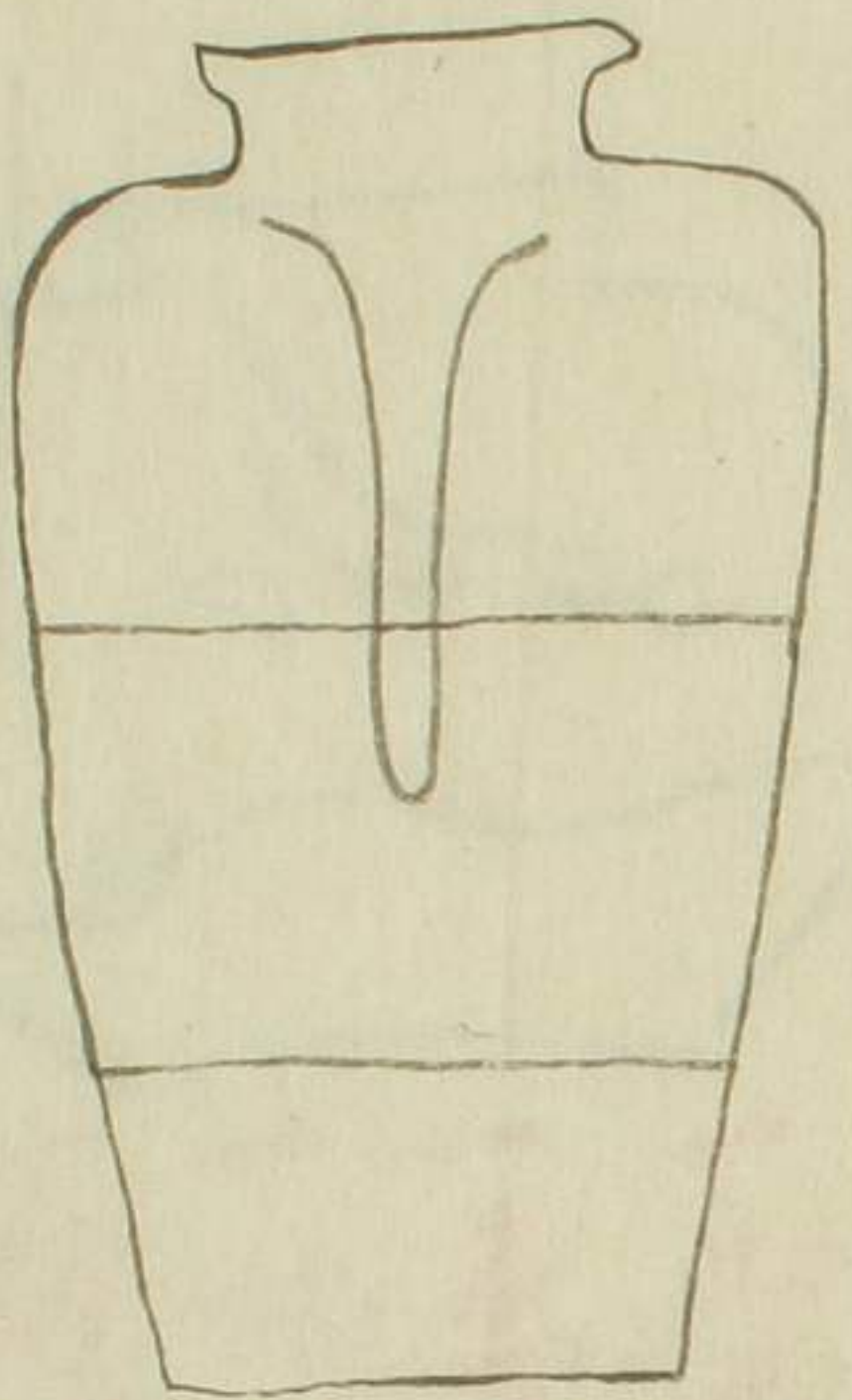
但此等切は寸切の度物と云ふことのきく

名あり



一 寸切

一 肩衝



一 口邊搥り花巻 一 土紫色

一 糸切か苜蓿目

一 腰帯之ケ一カ

一 地紫作紫

一 上敷は通船草か言ふる

一 糸切の字 一 草色か淡く是

但肩衝の葉入たるの銘也

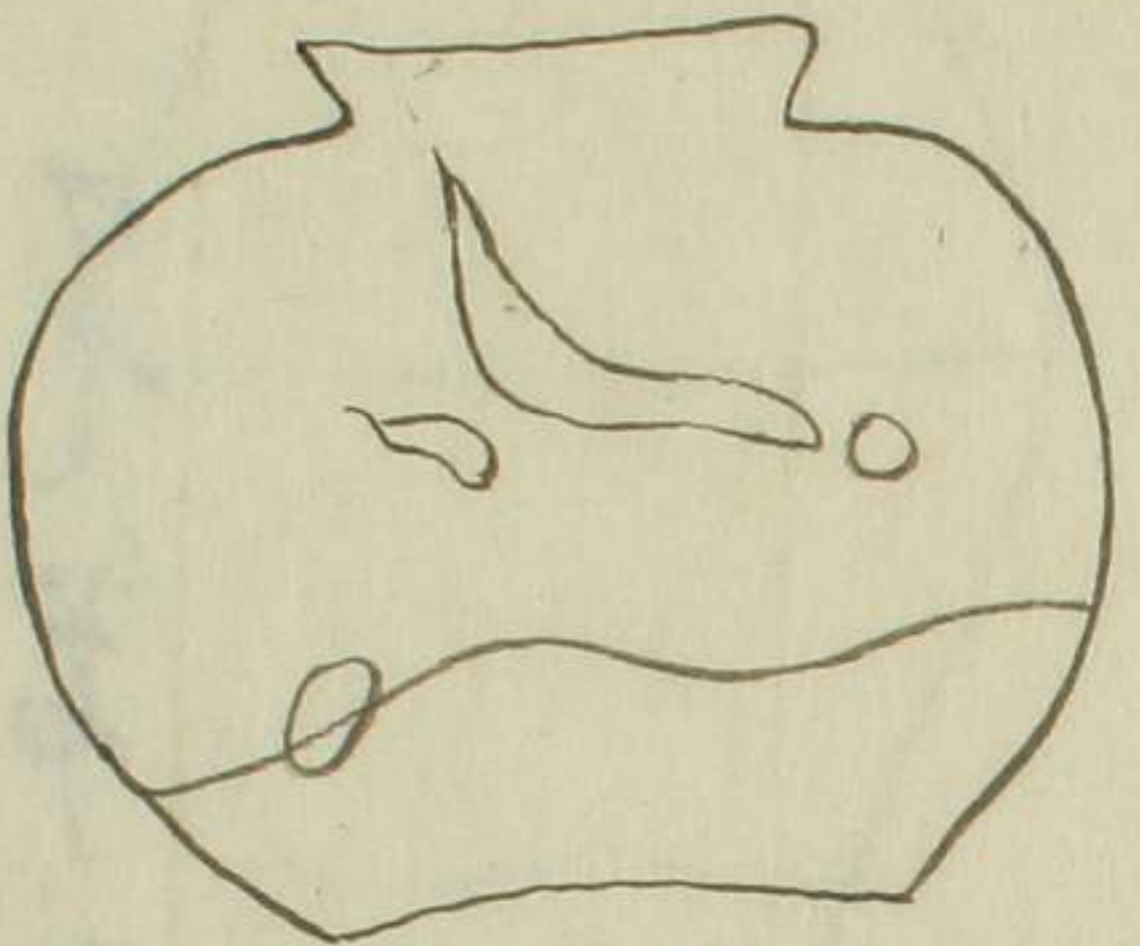
一肩衝を方袋に入てても出てく日あり  
 但此等類の肩衝は物と云致すものを  
 てた力と



一 肩衝の形  
 一 肩衝の形  
 一 肩衝の形  
 一 肩衝の形  
 一 肩衝の形  
 一 肩衝の形

一 文琳

一文琳 但海海回よりほ又文琳の形は梅橋の



一 口邊控色好  
 一 土層赤色  
 一 糸切帯の目  
 一 地系黒色  
 一 顔系黒色  
 又琳の形あり

但又琳の糸入帯の形

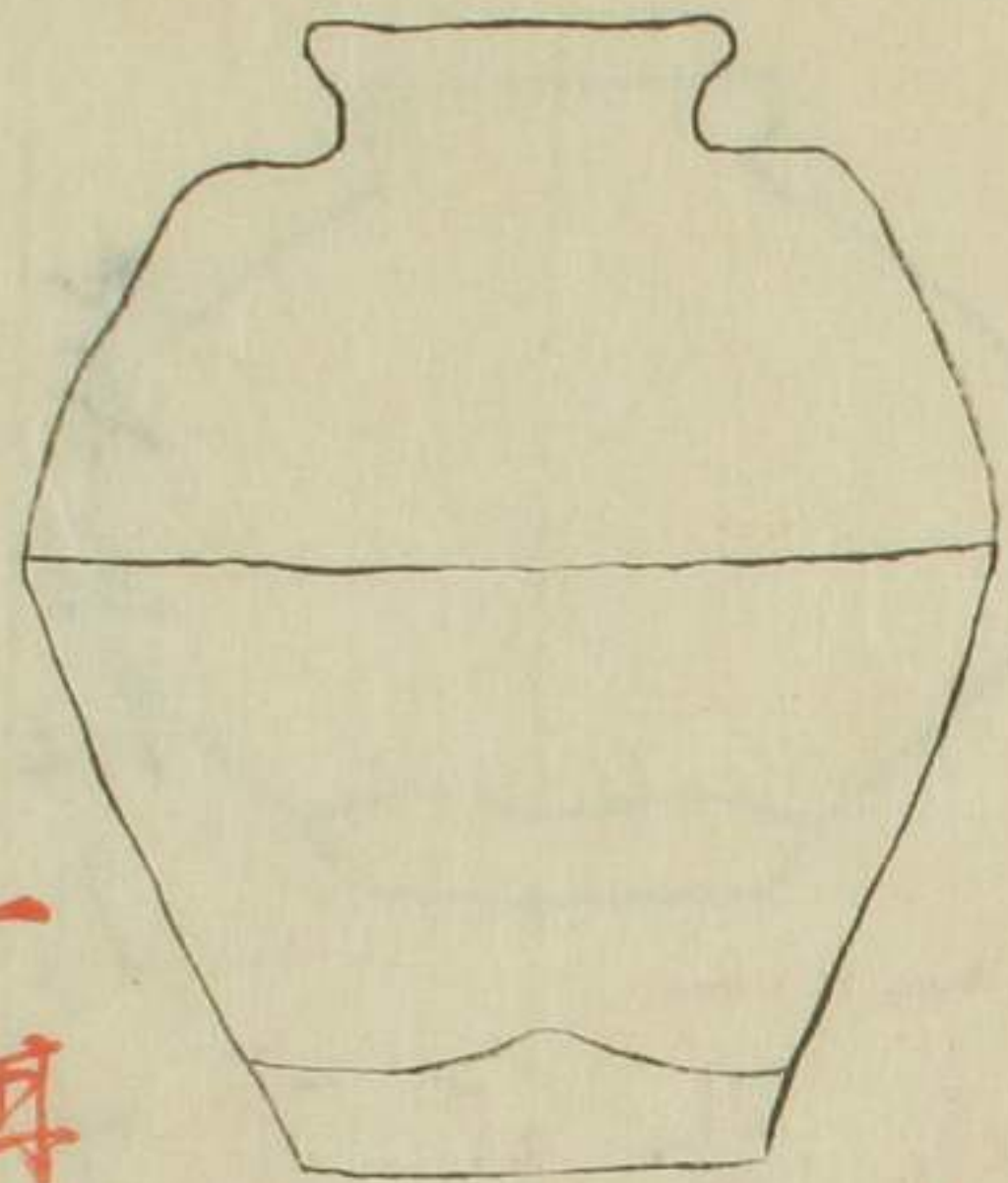


一又琳主万休家今も出ても目録  
 但用方教りて琳座和言入るもの  
 けし常のこと



一又琳主万休家今も出ても目録  
 一又琳主万休家今も出ても目録  
 一又琳主万休家今も出ても目録

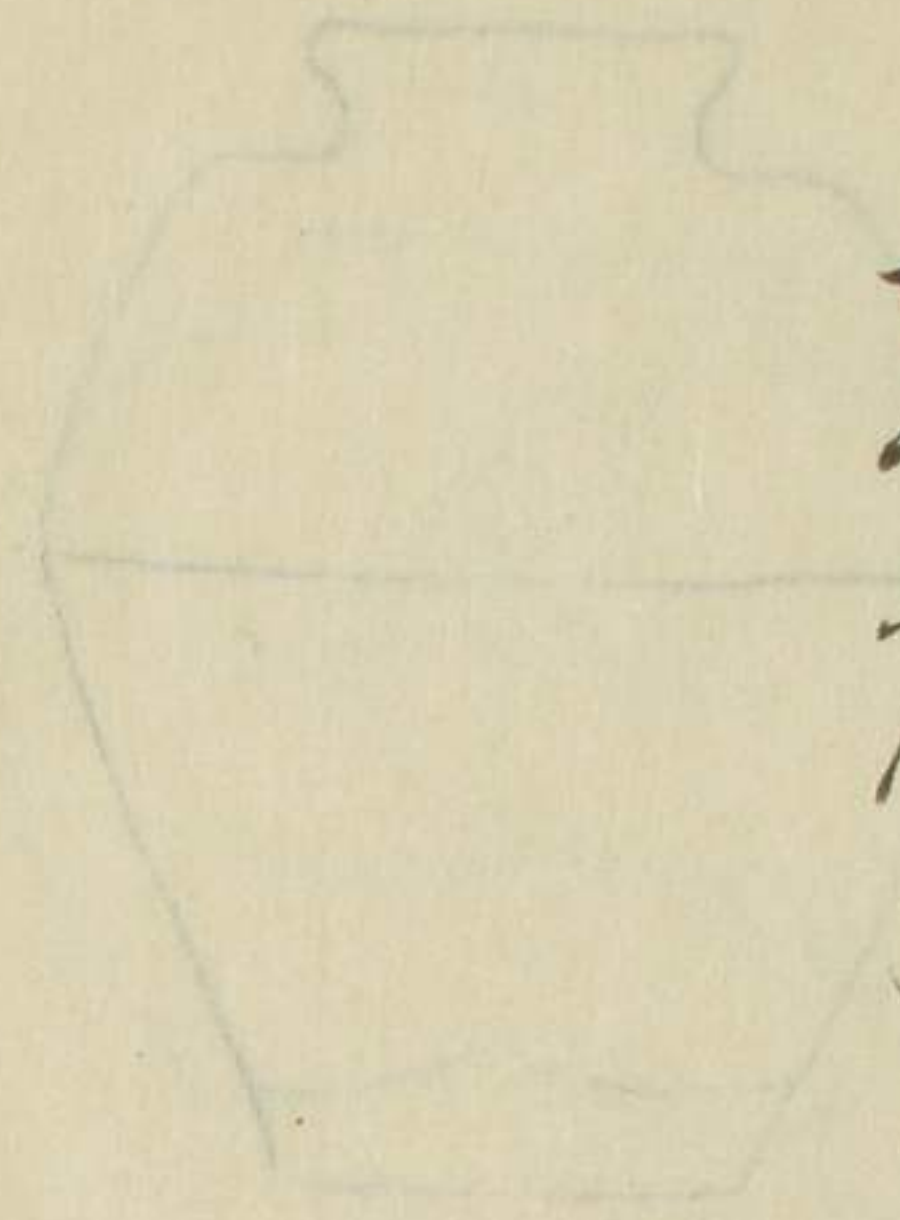
一餌羅



一口送控丸ぬ 一土浅茶色  
 一糸切細く見る  
 一地茶梨目茶  
 一上茶黒茶の濃色乃下流の  
 梅小見ゆき  
 一餌羅と鷹の餌を入物の形也

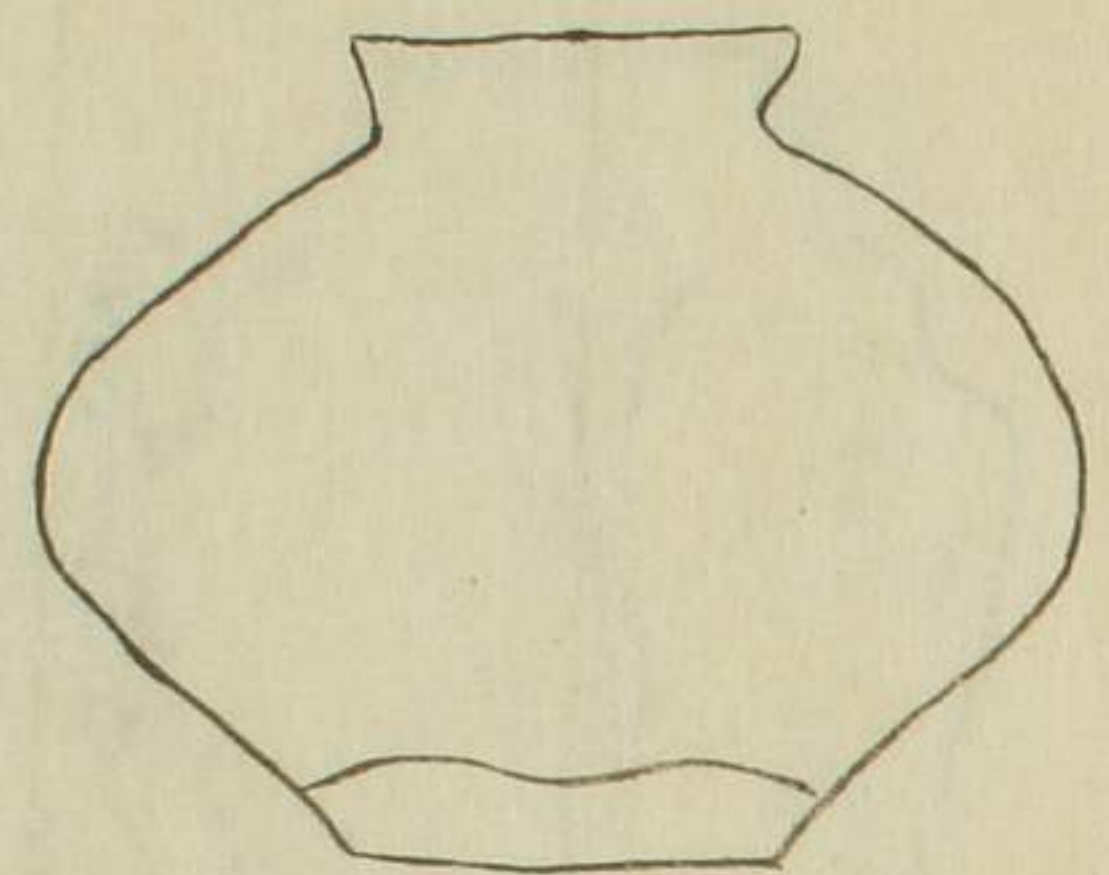
但餌羅の茶入乃之

一 餅蓋をとり入れしりて目あり也  
 他 餅蓋の類の餅蓋を相立初る  
 ともありたり



一 餅蓋

一 達磨



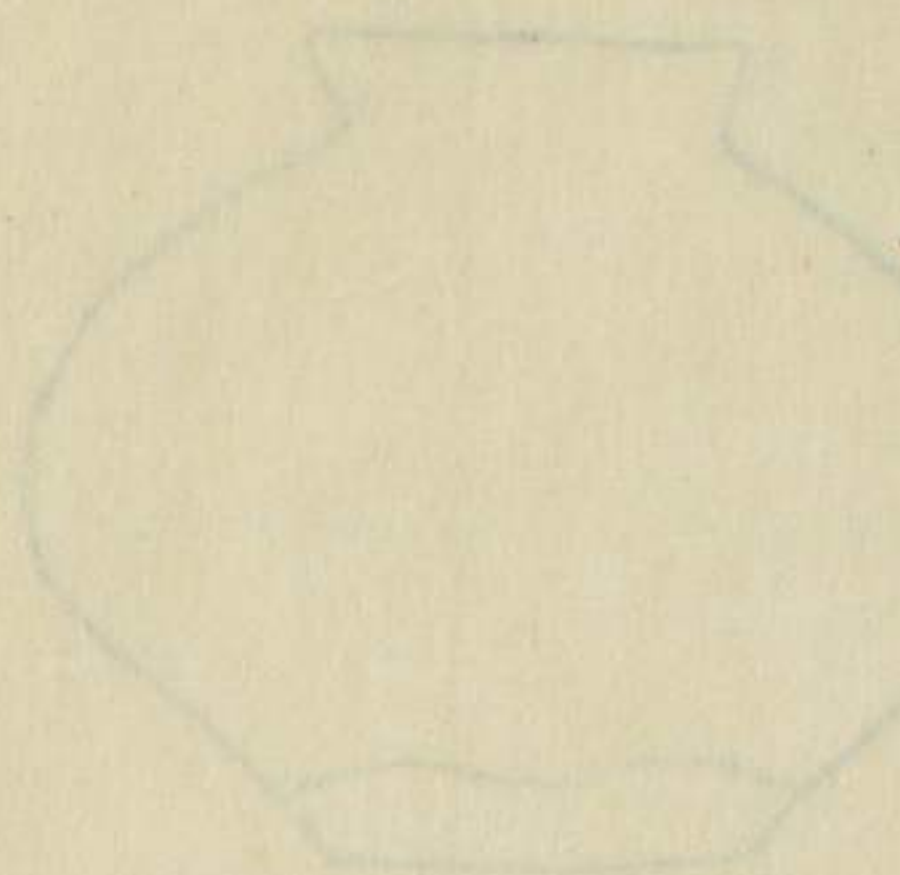
一 口達磨はぬ 一 土唇の色  
 一 糸切足も也 一 土色行色器及  
 一 上茶黒茶茶葉類も  
 あり  
 一 達磨は殊形小粒の形  
 あり

但達磨の茶入帯の形也

一 蓮座像 今も出さぬ日あり

但 蓮座 勢の蓮座 座物と云 袂との

毛のあり



*Faint red ink bleed-through text from the reverse side of the page.*

一 車軸

一口 蓮座 口を 蓮座と云 一 土 漆 黄 色

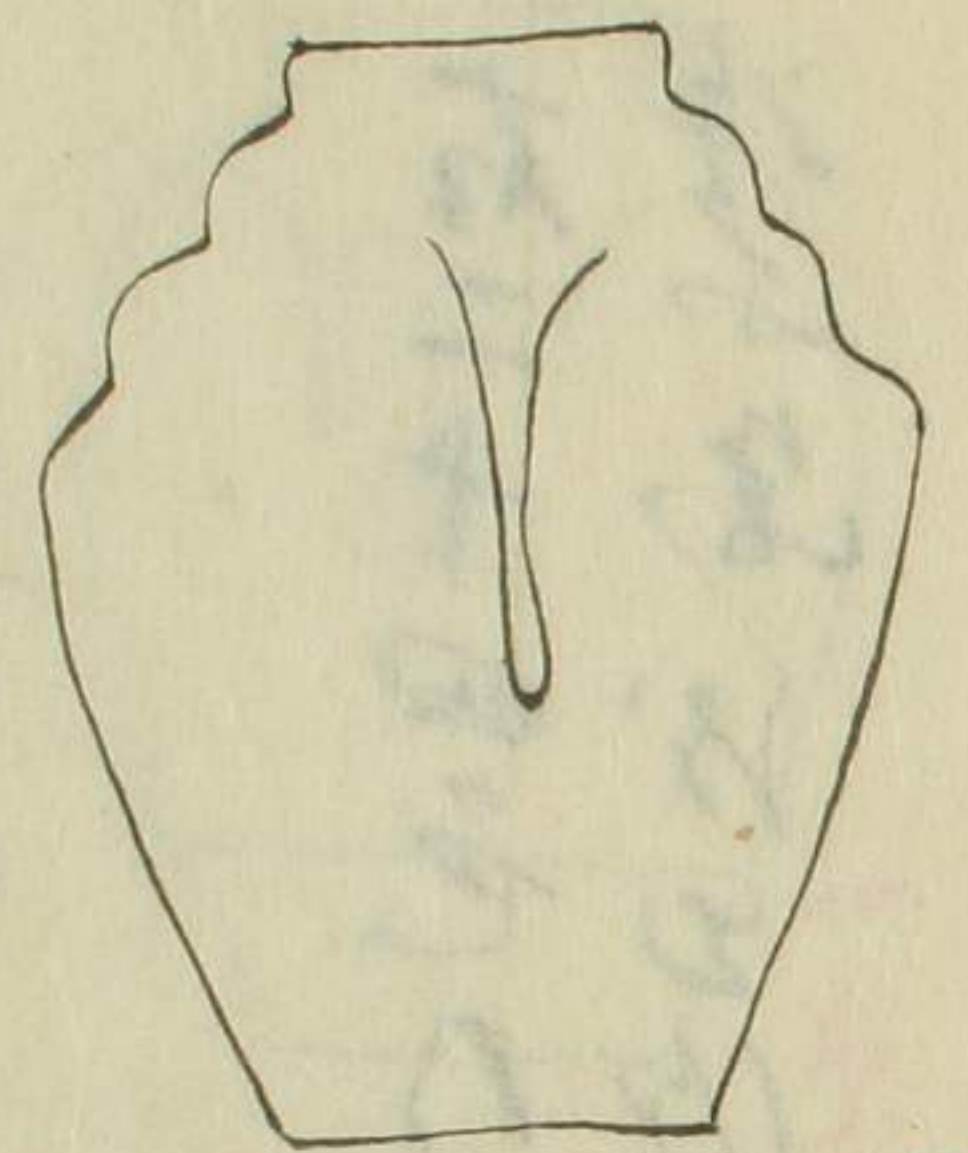
一 糸 切 帯 乃 也

一 地 葉 層 蓮 色

一 土 葉 濃 黒 葉 又 層 蓮 色 乃

乃 乃 乃 乃

一 車 軸 乃 乃 乃 乃 乃 乃



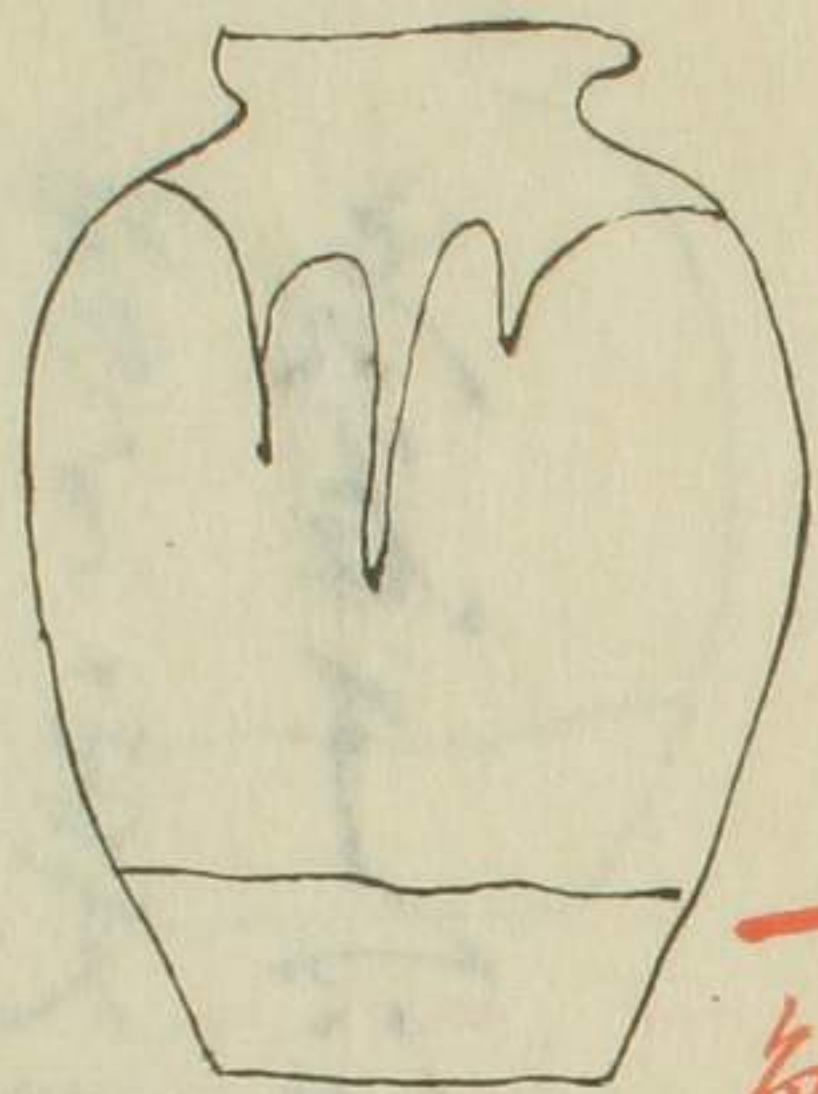
一 但 車 軸 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一車軸金方袋小入ても出ても同義也  
 但江戸敷の車軸金物と親をのり  
 と帯のり

右二十四色乃度物外も形有るは  
 次第次第

一東琳

一文琳又一體



一口道捲也乃帯 一玉海苔色  
 一糸切細く花寄也  
 一地葉層赤色艶能物也  
 一散一葉層黒色葉  
 一散一葉層黒色葉

但文琳乃葉入帯は銘也

一文琳金方袋小入ても出ても同義

一但瀬戸器の文琳唐物と云類をいふ  
て考へらる

一今世亦又琳といふは安之の  
安といふ文琳といふは久未文琳即  
ち若くは未文琳といふ方亦文琳

一文茄

一文茄

但上の文琳下の文琳は赤をいふ又茄と右を  
述べてあり

一白透摺毛ぬ 一土層白色の小きみ

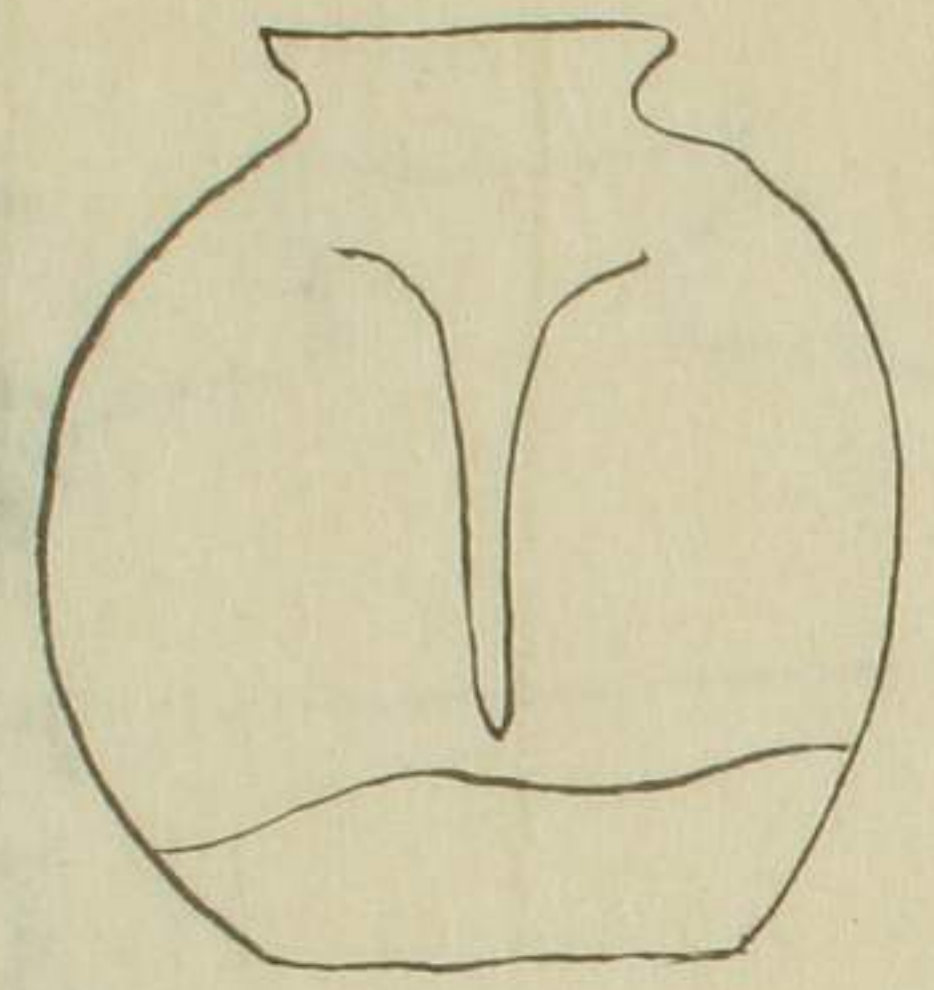
一糸切草の者

一地葉層雲色に銀糸の者

一白紅層色地帽葉類の者

一茶色濃く足白く是葉の者

黒



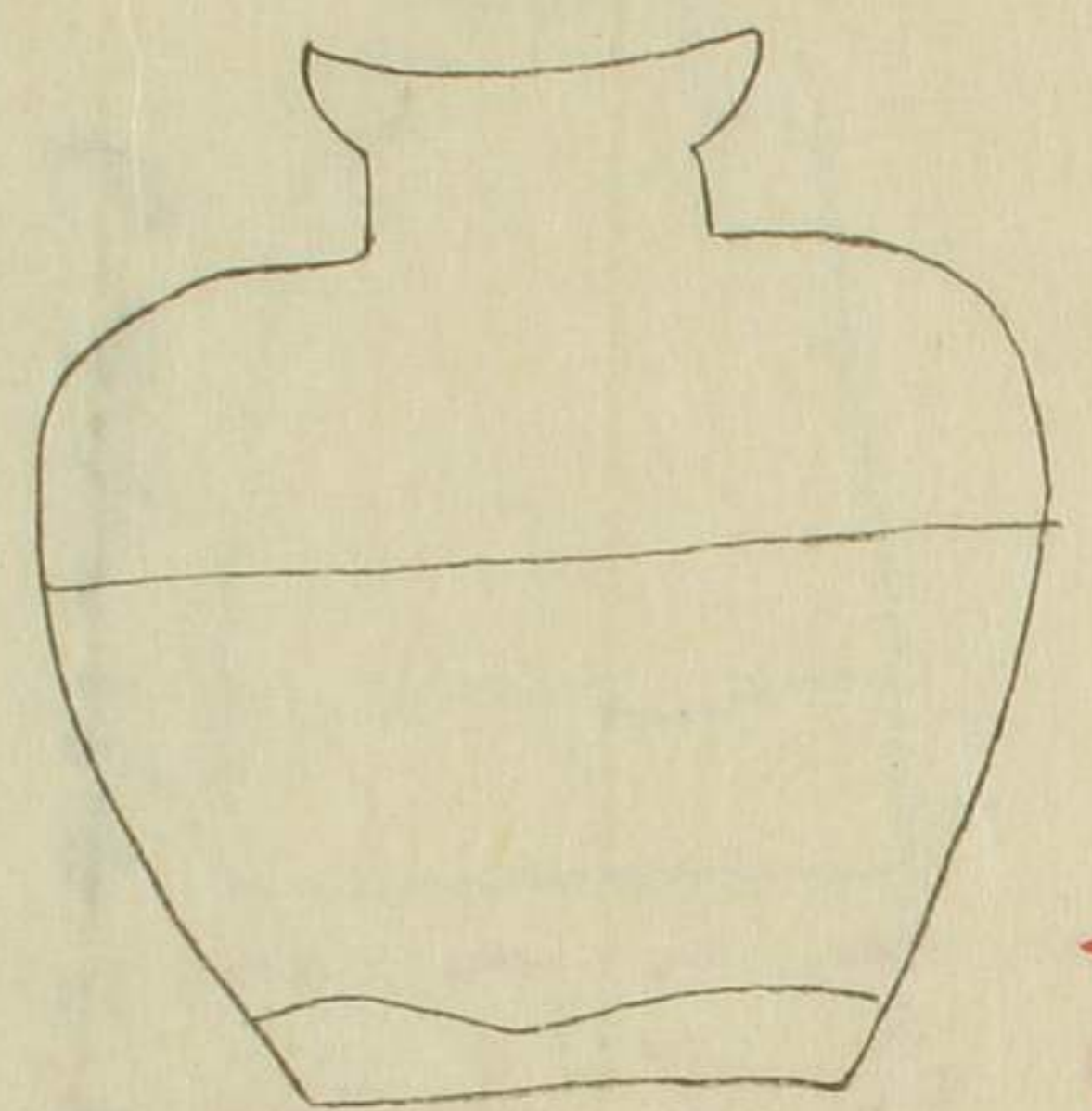
一文茄の葉入帝社誌之

一文茹、重方袋、小令も出ても目録に  
 似ぬ戸敷の文茹、厚物多親とのを  
 て常仕とす



一文茹 重方袋 小令も出ても目録に 似ぬ戸敷の文茹 厚物多親とのを て常仕とす

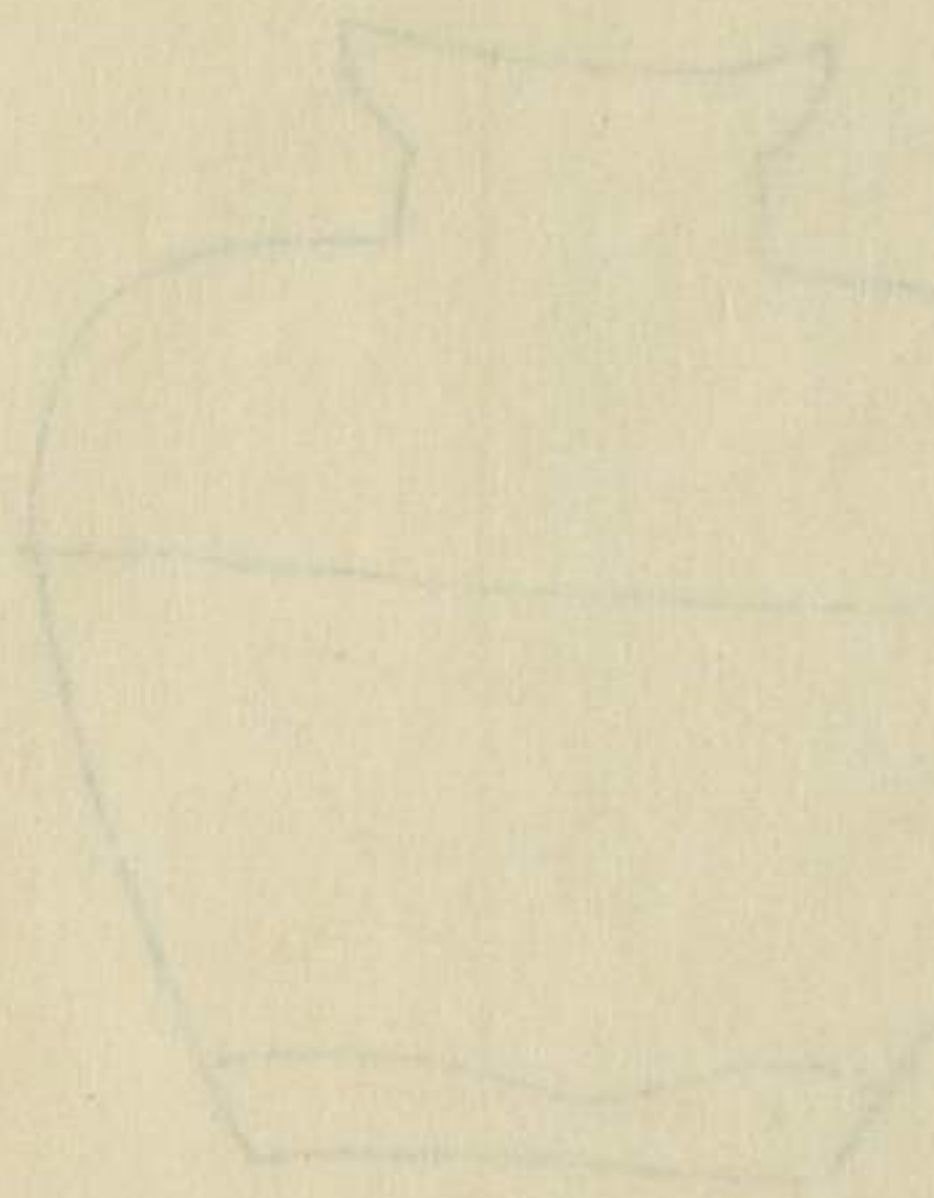
一 懸蹄口 似る懸蹄口 文茹の如く 文茹の如く



一 口造り 一 土浅草也  
 一 糸切細く花奢  
 一 下葉厚赤也  
 一 上葉思葉厚墨色の  
 茶文群の如く是は戸  
 茶の厚物也

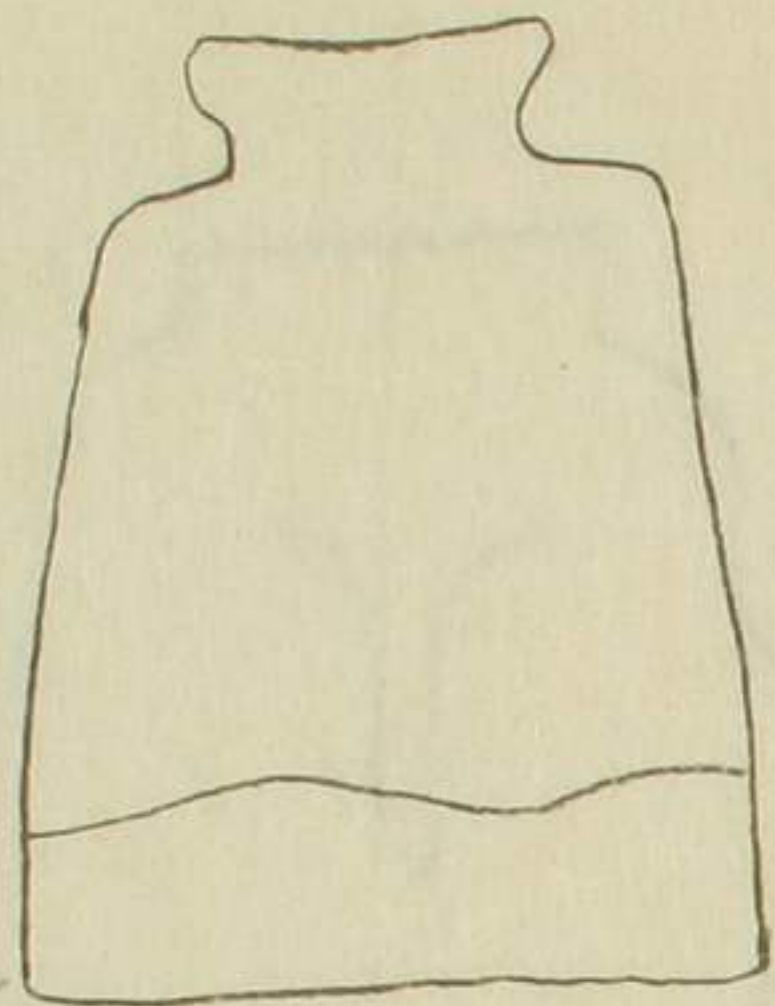
但懸蹄口の子茶入常仕也

一 藤蹄口蓋方紫よ今も出てく同前  
 但漸々数入藤蹄口蓋物も新紙  
 のまき常のまき



一 藤蹄口蓋方紫よ今も出てく同前  
 一 藤蹄口蓋方紫よ今も出てく同前  
 一 藤蹄口蓋方紫よ今も出てく同前  
 一 藤蹄口蓋方紫よ今も出てく同前

一 神頭



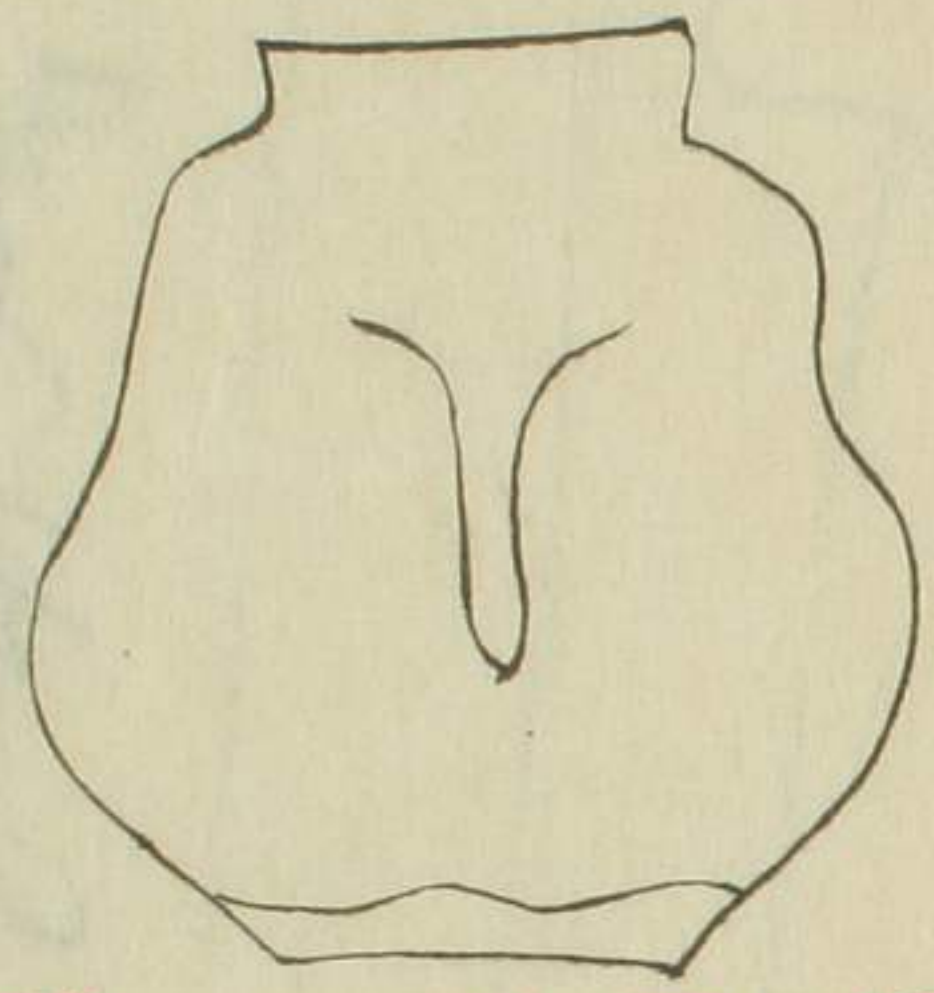
一 口遠花巻也 一 玉系  
 一 糸切ぬ  
 一 下系唐系系  
 一 上系系系群有  
 一 神頭とハ矢の根小  
 一 糸小

但神頭乃糸入帯以結也

一神匠金方袋ふ入りし 世に伝へたる  
 但御方敷の神匠屋物名鉄とあり  
 一常世と云

一神匠  
 一神匠金方袋  
 一神匠屋物名鉄  
 一常世

一十五頭



一 口遣捲也か 一 田上  
 一 糸切かひくまを  
 一 地茶葉銘色  
 一 上茶もろりか厚く  
 又黒茶取るとあり  
 一十五頭は権魔王の冠と伝へたる

但十五頭乃茶合の銘也



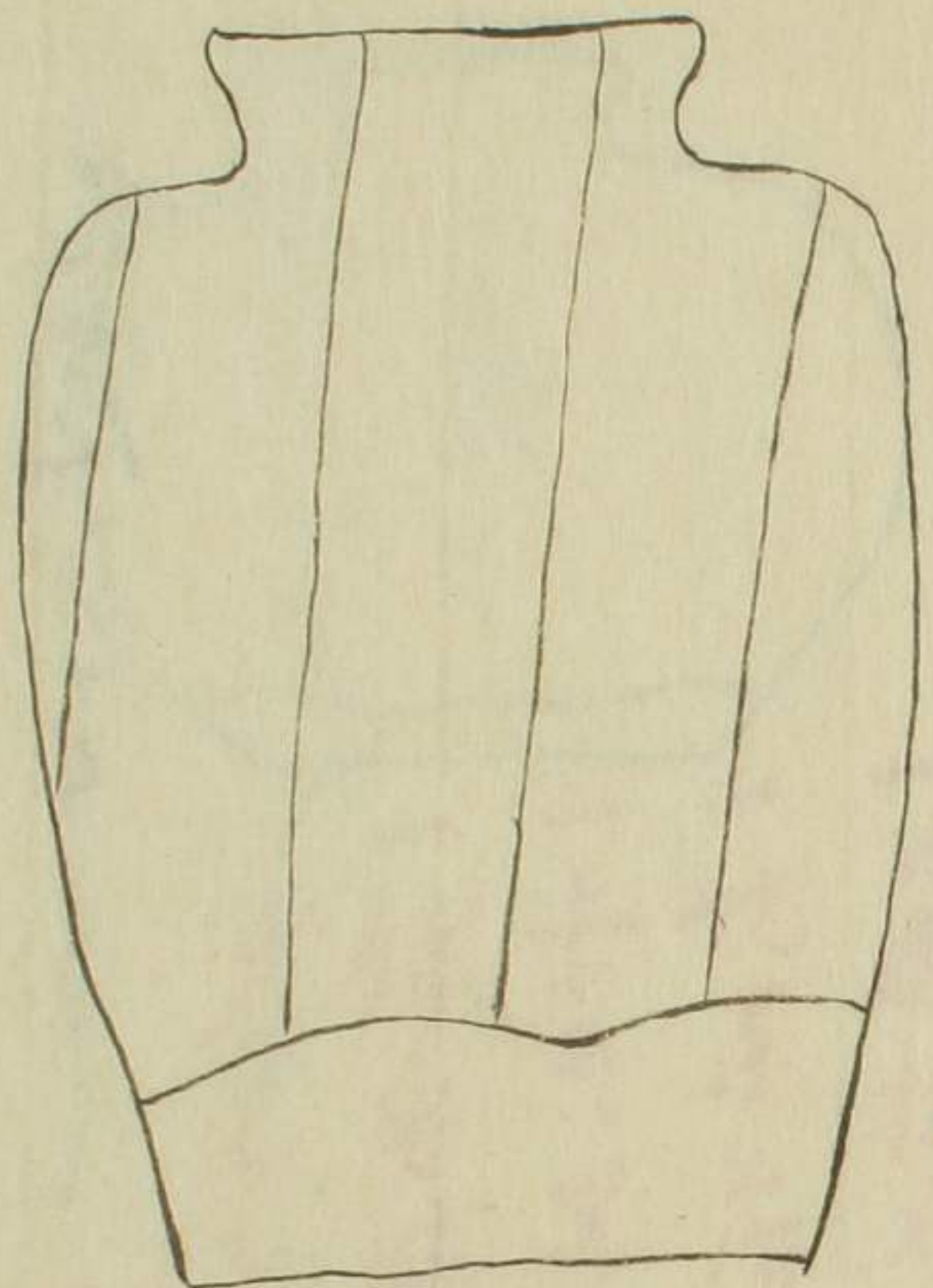
一十王以重なる袋ふ入るともわくも何の  
 但此戸敷の十王以戸物と云新よの  
 ま〜〜の〜



*(Faint red ink bleed-through text from the reverse side of the page)*

一十王以

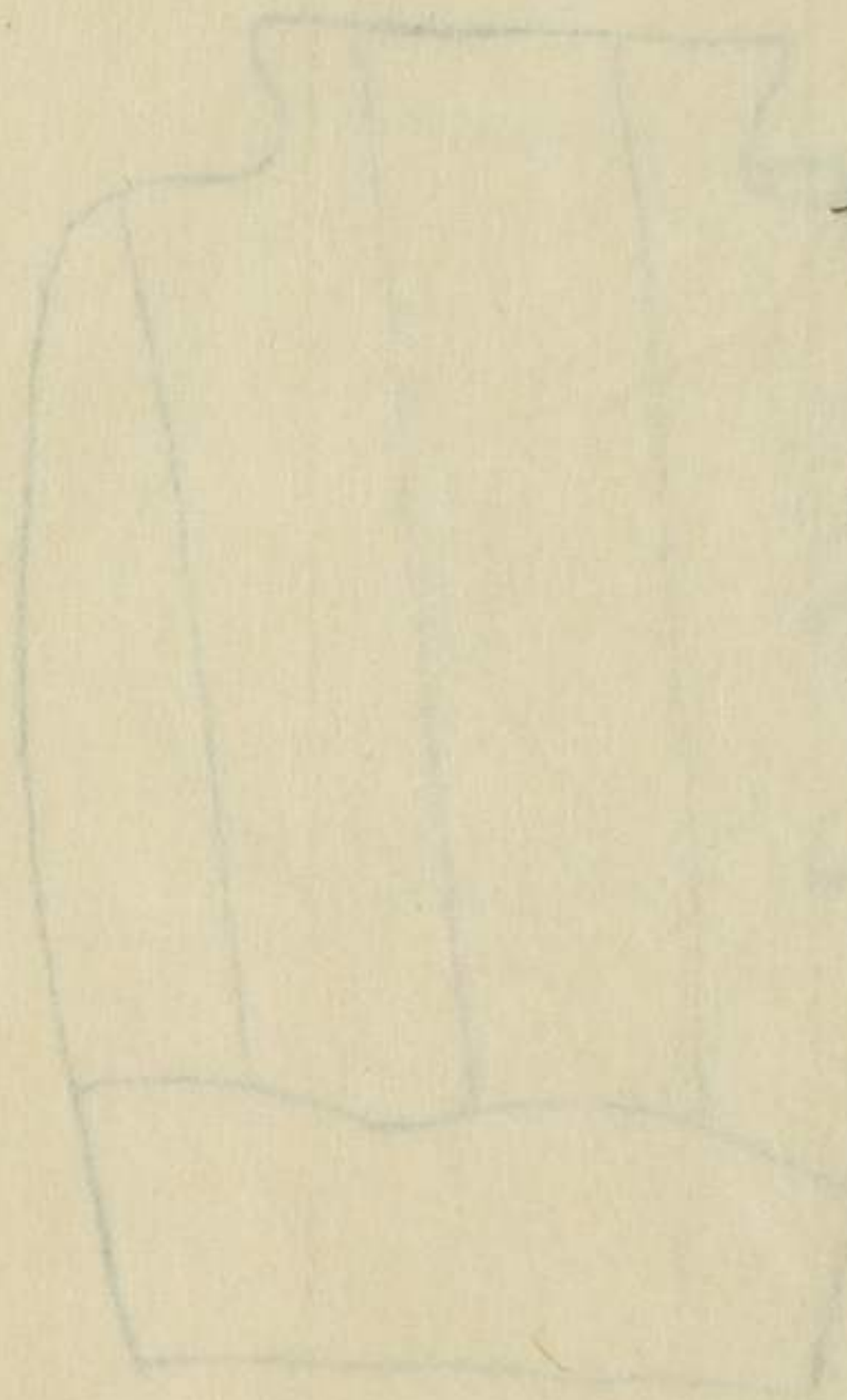
一 胴高 但柔介の胴高を可なり



但胴高の柔介常の銘

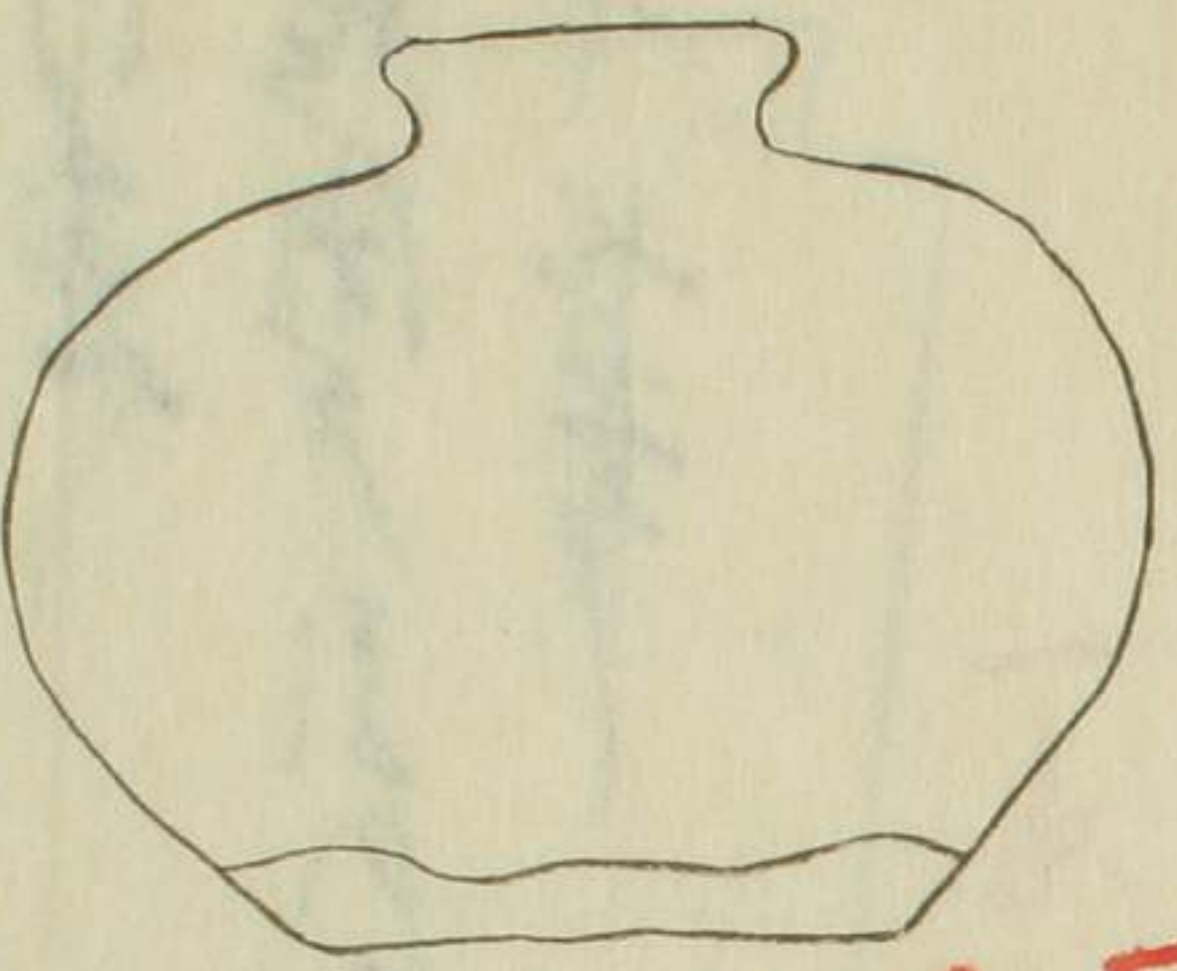
一口造捨足ね一土層赤色  
 一興底  
 一此柔介の〜  
 はや  
 一上柔介は〜  
 流す  
 一胴高の柔介常  
 記す〜横

一 洞言の茶入金方袋小大下出せる也  
 似茶入形入洞言庫物と云人との  
 て名なり



一 洞言の茶入金方袋小大下出せる也

一 餉鬼飯



一口遠捲尾の茶 一 土師茶也  
 一 地茶 尾茶色乃餉茶  
 一 上茶 黒茶小貫餉茶文取  
 一 餉鬼飯と云頭細く後張る  
 少(名)也

但餉鬼飯の茶入帯の徳也云々

了也

一 茶入の茶をいれ茶碗に茶をいれ

いれ

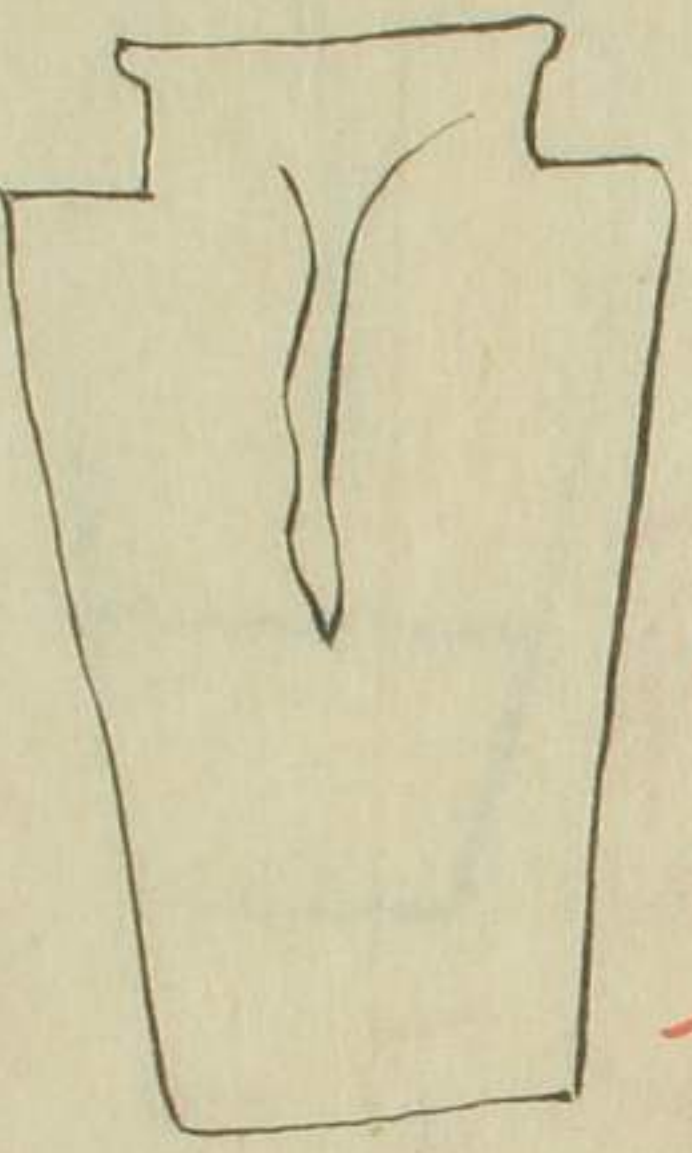
能く茶の味をいれ茶碗に茶をいれ

てい



一 茶碗に茶をいれ茶碗に茶をいれ  
一 茶碗に茶をいれ茶碗に茶をいれ  
一 茶碗に茶をいれ茶碗に茶をいれ

# 一角本



一口造 捲尺 赤常 一土 彦 赤色

一糸 切好 一地 糸 濃 材 色 茶 爲

如 思 く 程 化

一上 茶 運 信 糸 蓋 信 色 入

交 下 流 の 柳 子 見 ち

一角 本 六 的 矢 の 板 子 五

是 子 似 ち

但 角 本 の 茶 入 茶 の 法

一角本立方家少人下等々日あり  
 但此方歌の角本座物と名款そのを  
 てめりて



1 角本立方家少人下等々日あり  
 1 但此方歌の角本座物と名款そのを  
 1 てめりて

一角陰帯 内小肩衝の道



一口造捻也乃乃 一土清草乃  
 一糸切細く又細く 一上茶房思乃  
 一上茶房思乃又茶房流  
 一茶房

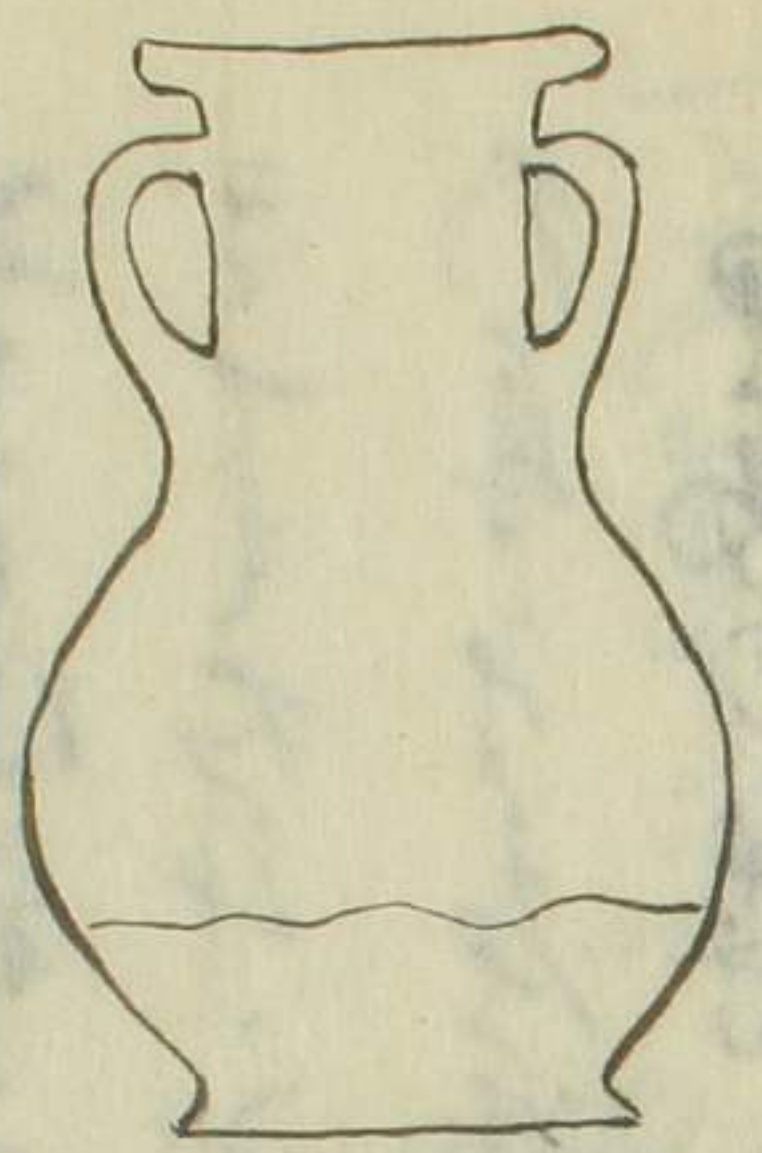
一角陰帯と正月十日座物乃  
 糸切細く又細く又細く  
 仍存

但此陰帯此糸入乃乃

一帯隆常進の袋出入る出ま同  
 似依戸敷の常隆常の度物を親と  
 のまきやんめり

1 1/2 lbs. weight - 1200 + 1/2 (weight in water)

一月付



一口送 捲色 一土漬 質土赤土福の土青土  
 一下葉子葉葉 鉛葉者  
 一上葉子葉葉 柳葉葉葉  
 群者  
 一月付小葉葉と云有常此葉の  
 一毎耳の少年と有て下細く葉の葉子似る

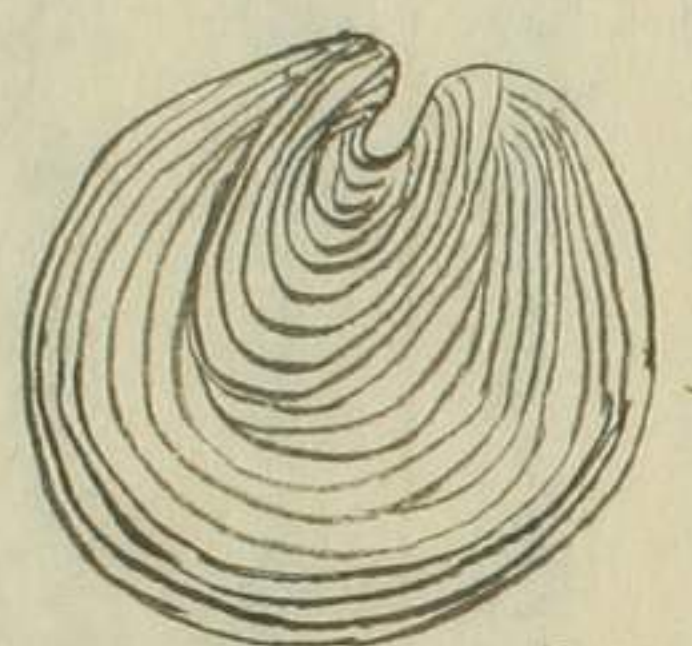
但耳付の葉入るの法之物一月の  
 白粉少く長統也

一耳背生方袋不今も耳たたふ  
 一糸入のそ類子又のふきき耳を向あ  
 ありそ糸をとり海桶のふりて  
 ときり時神あゆむはあきたたふ  
 きてはち斗ふきこもふきり他は戸敷  
 の身なり度物をそ類とのきり斗九を類  
 度物の通や

一志度物のそ類子海桶の度物糸のふきき  
 一糸入のそ類子又のふきき耳を向あ  
 ありそ糸をとり海桶のふりて

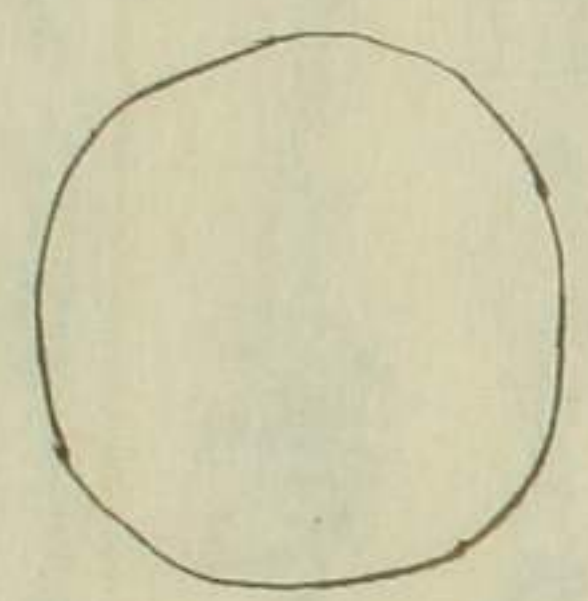
度物糸入庭乃糸切の糸

一度物の糸切



は糸切たそ也是度物の  
 糸をとり海桶のふりて  
 糸のふきき

一袋起庭



は庭ふけりて庭を袋  
 起りて糸をとり海桶の  
 糸のふきき



多航の積段の法

百々余を云ふ入給の積極を云く凡給

有給やして入給なる一Pのよりのり

比たを云くこの中の念給のたの<sup>ハ</sup>入給

〜せいのや

但是のたのりた〜たのやのやのたのたの

給給のたのりた〜たのやのたのたの

まゝ入〜たのりた〜たのやのたの

今ん給のりた〜たのやのたの

〜たのりた〜たのやのたの

Pのりた〜たのやのたの

〜たのりた〜たのやのたの

行短の極やと

是の初給と給のりたのたの

〜たのりた〜たのやのたの

たのりた〜たのやのたの

たのりた〜たのやのたの

のりた〜たのやのたの

や給のりた〜たのやのたの

行短のりた



あまのついでに

たのしみとして読むことには程なく終ひ

ついでに

ついでに

たのしみであるが

主として

一 筆入者の読の終ひ極く筆入の筆入を

ついでに

ついでに

ついでに

の終ひ

但し

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

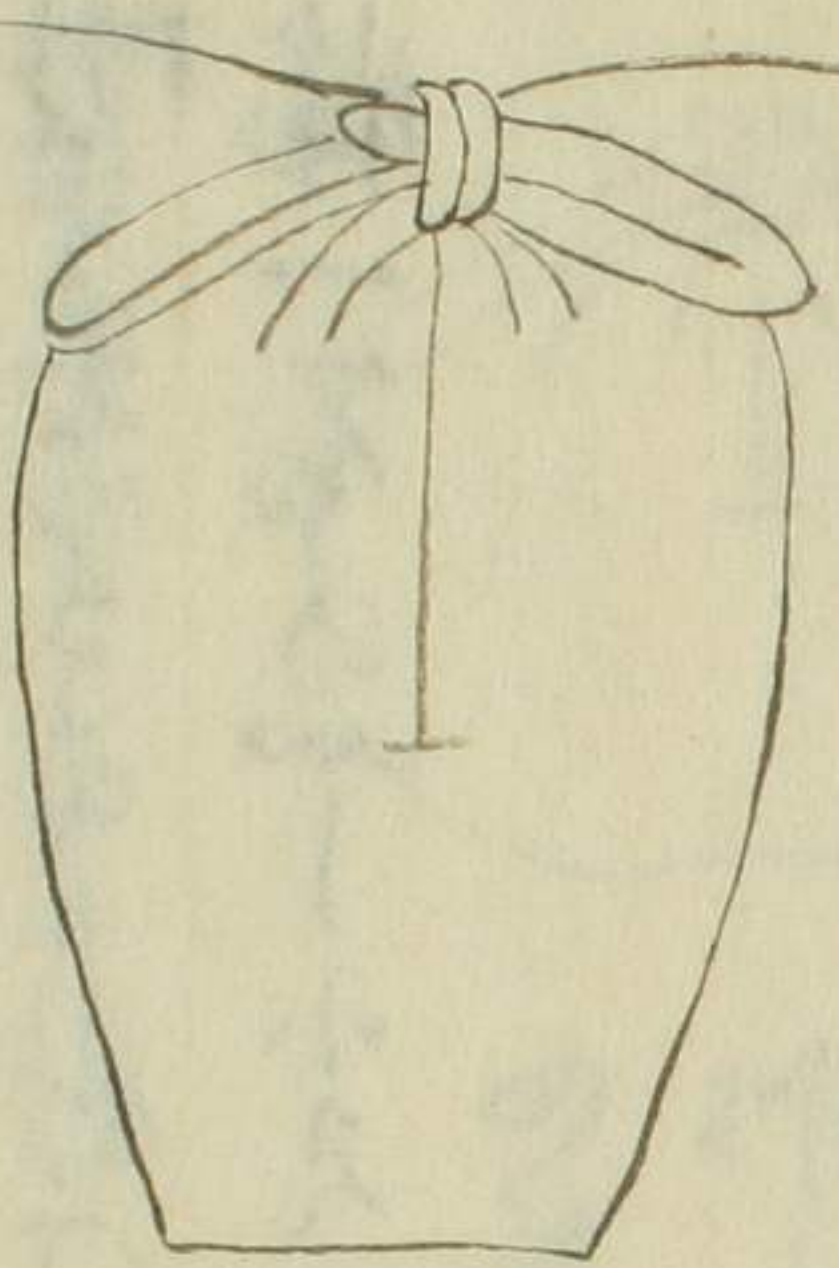


結をゆるぐ

祖師の法に依りて修行すべし  
又一に修行すべし  
の多しは修行すべし  
いづれに修行すべし

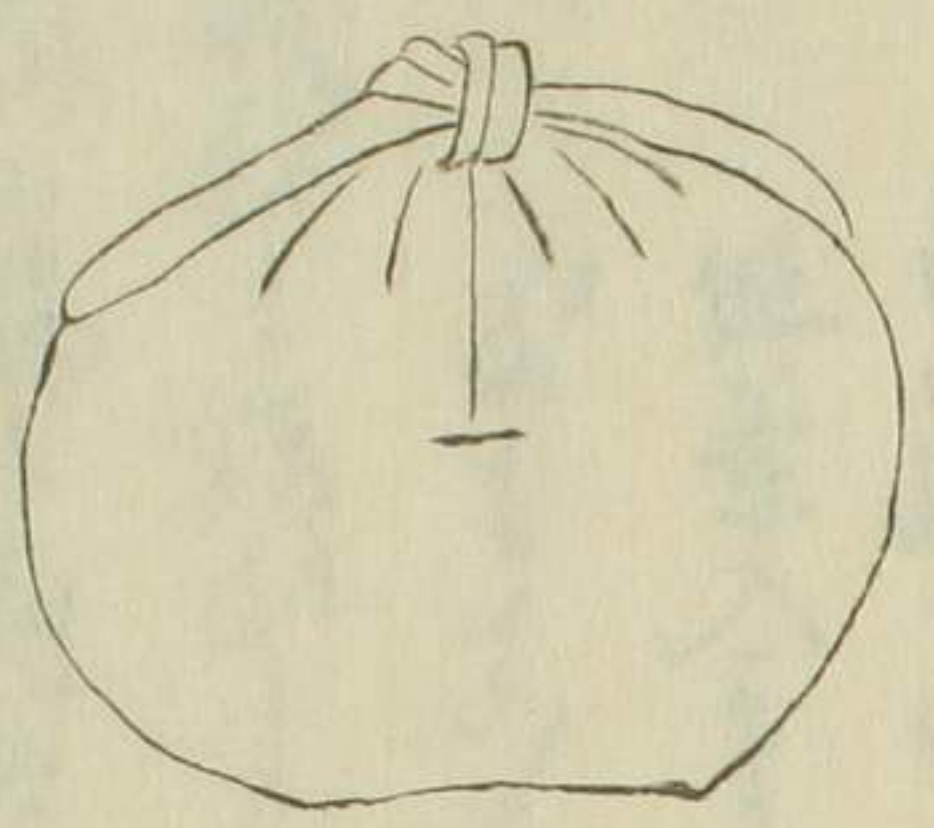
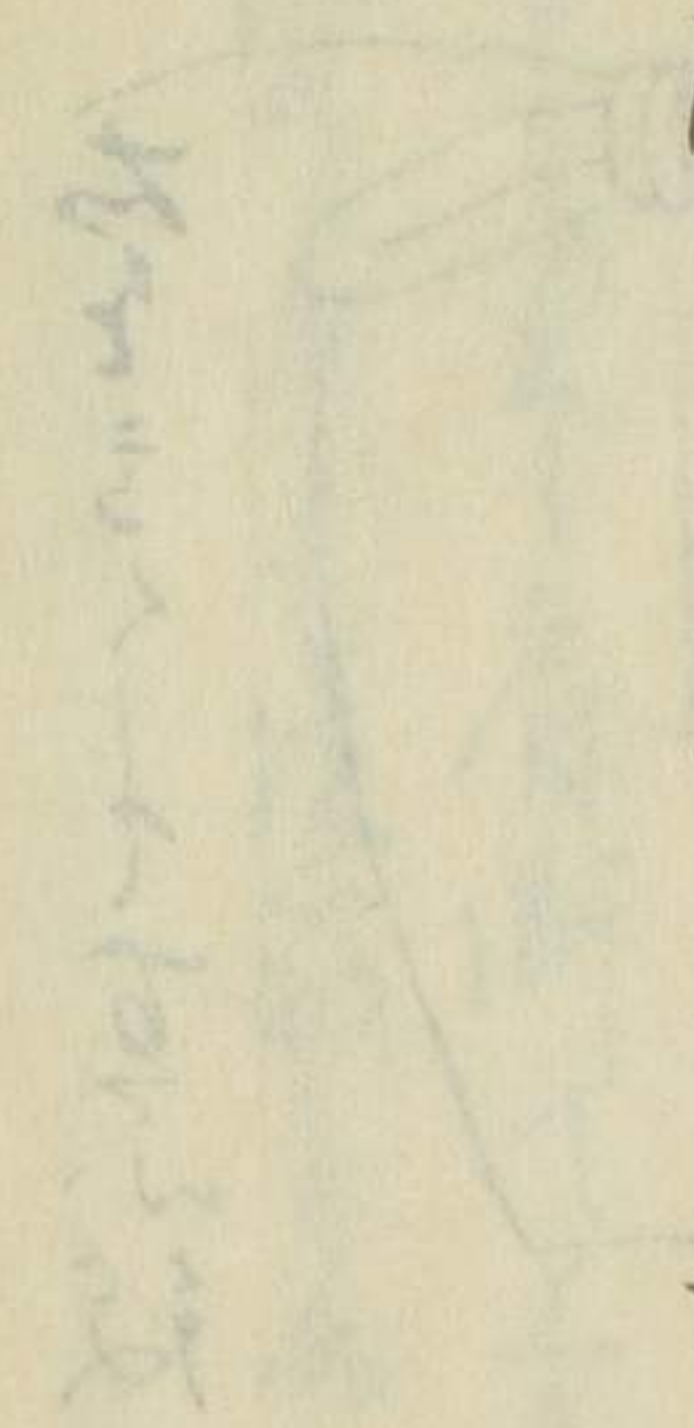
一上のまねのよきもの  
一修行すべし  
修行すべし

右をゆるぐて可ふ致



有衝中系入の世に修行すべし  
有さかり中系入の世に修行すべし

一 糸入...  
 一 糸入...  
 一 糸入...  
 一 糸入...



糸入...  
 糸入...  
 糸入...

糸入...  
 糸入...  
 糸入...  
 糸入...



入向は二節とたの太極をたのふの意は極ま  
しとあましくしつち極まふ氣の二節とたのふ  
向ふは——たふまたたの人指と中指とのあま  
ま——たふとあまふたの太極と人指を初  
たの太極を中指と向ふの二節をばむと  
右か——しつちと二川の橋とたのふ  
し中指をたふとあまふ一川の橋と二節とたの  
太極と初——向ふとあまふ三川の橋とよる極  
たのふ指と中指をよる二節をたふと極を極  
まふたふ——しつち二川の橋とたのふ太極を

か——しつち二節の橋とたのふ太極を初たふ  
か——しつち二川の橋と二節と初向ふの太極を極  
まふ二川の橋と初たのふ太極初二節の橋  
たのふとあまふ——たのふ太極一節の橋とたの  
ふとあまふ初二川の橋と入しつち太極をたのふ  
まふ指と二節の橋と初たのふ太極とあまふ  
か——しつちとあまふ——しつち一節の橋の極ま  
まふとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ  
しつちとあまふとあまふとあまふ



叔方の大坊より人持と光福瑞をばあま成る月  
折え鏡より上向の梨を折てはあまなる  
あま成る月入

但可成をたふと成てはあまなる月入  
鏡目の以のあまなる月入をたふと成てはあまなる  
たふと成てはあまなる月入をたふと成てはあまなる  
てはあまなる月入をたふと成てはあまなる  
あまなる月入をたふと成てはあまなる

叔方の大坊と成る月入のあまなる月入  
折と成る月入のあまなる月入

たふと成てはあまなる月入をたふと成てはあまなる  
てはあまなる月入をたふと成てはあまなる  
但可成をたふと成てはあまなる月入  
叔方の妻と成る月入をたふと成てはあまなる  
あまなる月入をたふと成てはあまなる

但可成をたふと成てはあまなる月入  
あまなる月入をたふと成てはあまなる

### 長鏡州の鑑

但可成をたふと成てはあまなる月入





とく物と云はばぬまか——ふしのまゝと云ふ人の心  
らふとせ又せらふとせ人の心か——せせせとせしは場と云  
の人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——

但志の物と云ふはぬまか——せせせとせしは場と云  
人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——  
ししは——又物と云ふはぬまか——せせせとせしは場と云  
人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——  
せせせとせしは場と云  
物と云ふは——  
せせせとせしは場と云  
物と云ふは——

唐物立寄りの心得

一 寄物多し物少し

但物と云ふはぬまか——せせせとせしは場と云  
人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——

一 中五よりあゆむ

但物と云ふはぬまか——せせせとせしは場と云  
人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——

一 中五後客と云ふ

但物と云ふはぬまか——せせせとせしは場と云  
人の物と云ふははぬまか——せせせとせしは場と云  
物と云ふは——

曰一後をよめるれば、地産物をとて、物入るる  
よめ、禮を授け、よめ、地産物をとて、物入るる  
て、よめ、物入るる、地産物をとて、物入るる  
昔に神をともせり

一 乙を奉養へて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる

地産物をとて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる  
乙を奉養へて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる

尸付をて、物入るる、地産物をとて、物入るる

一 乙を奉養へて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる  
乙を奉養へて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる

一 乙を奉養へて、物入るる、地産物をとて、物入るる  
及、物入るる、地産物をとて、物入るる

一 江戸入ぬはなまら

但し江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

一 名物の江戸物たるはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

一 江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

一 江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

一 江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる

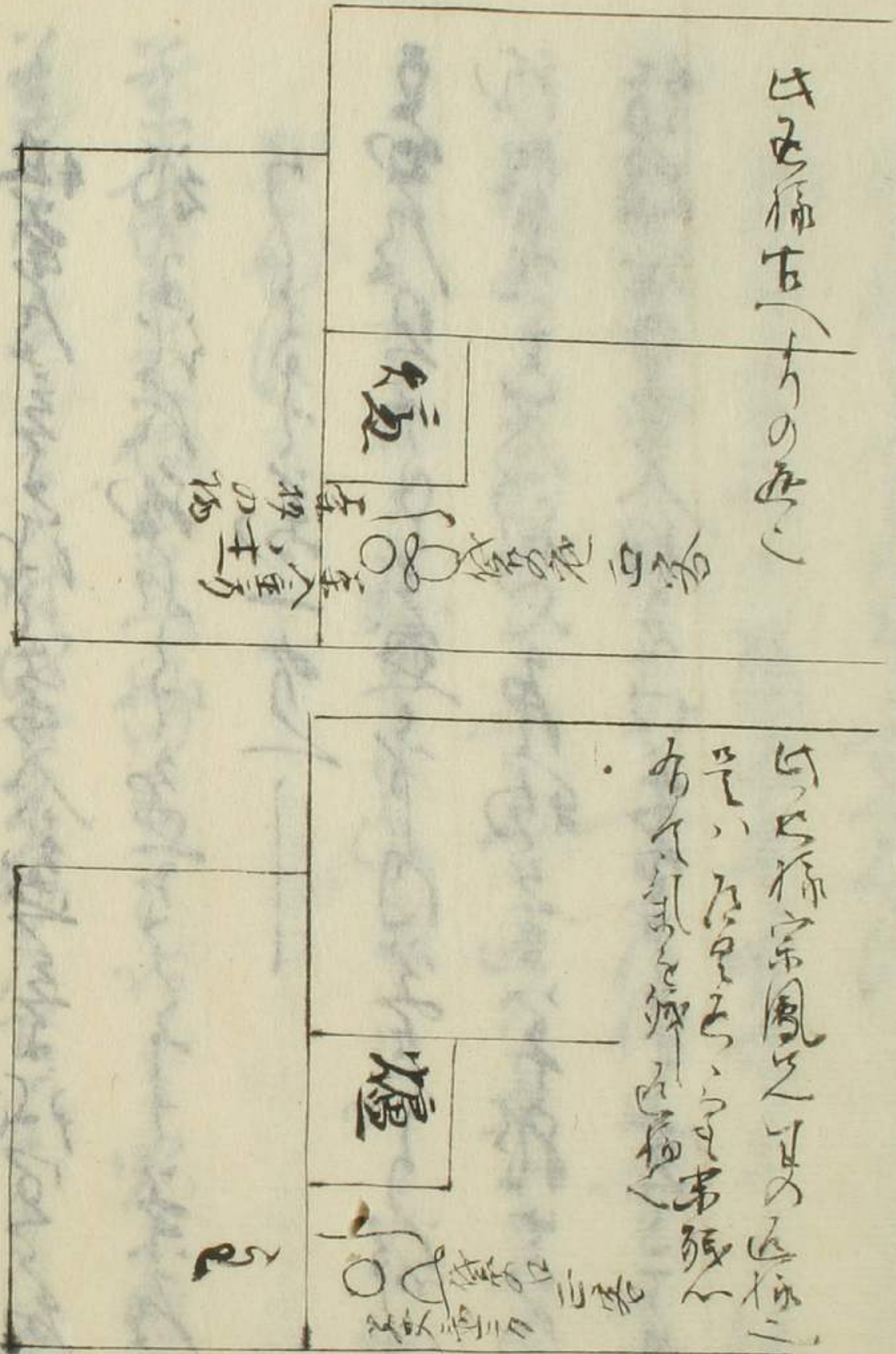
江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる  
ゆへに江戸の時に江戸入ぬはなまらも江戸の成りたる



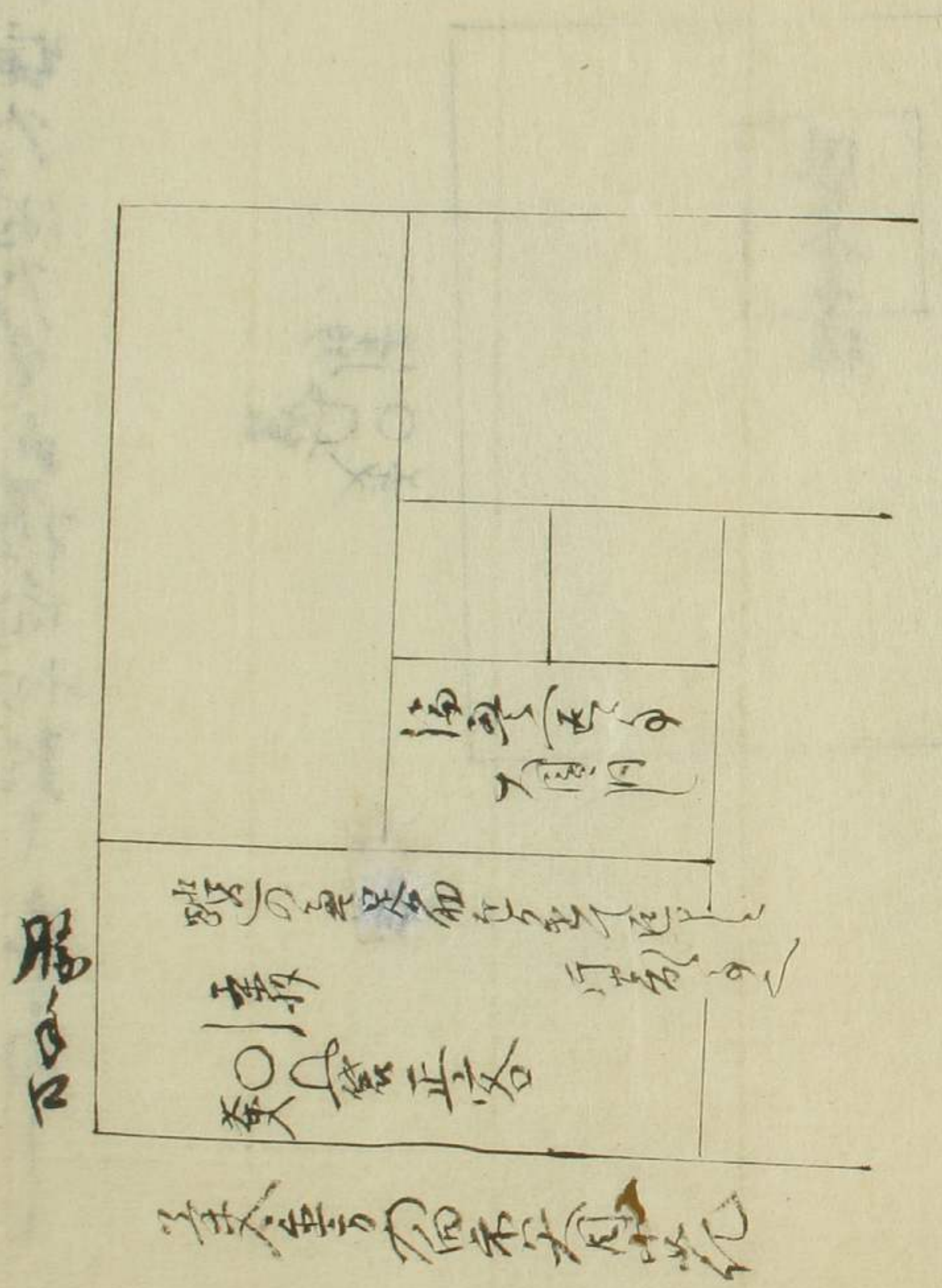




大目客一ノ奈入登名桑抄区係ノ条



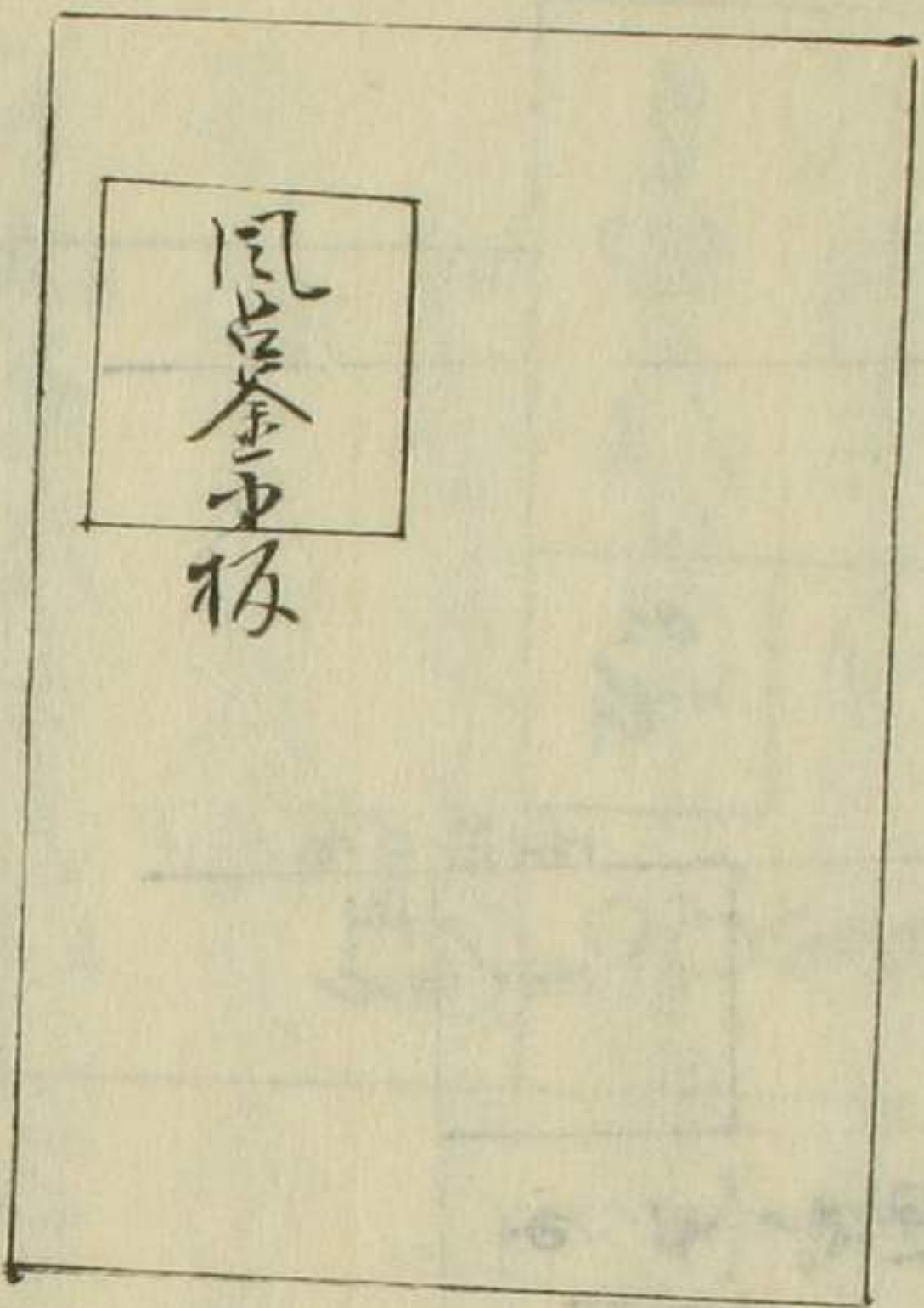
大目客一ノ奈入登名桑抄区係ノ条





凡鏡乃時乃有區極向切款七是月一

海河  
○  
教



風卷中板

*Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.*

